

Readiris 15

ユーザガイド

目次

Readiris 15	5
Readiris について	5
Readiris 15 の新機能	6
利用条件	9
セクション 1： インストールとアクティベーション	11
システム動作環境	11
Readiris のインストール	12
Readiris のアクティベーション	13
ソフトウェアの登録	14
アップデートをチェックする	14
Readiris のアンインストール	15
技術サポート	15
セクション 2： はじめに	17
Readiris を初めて使う	17
インターフェースを利用する	17
インターフェースのカスタマイズ	19
ユーザインターフェース言語の変更	21
スキャナの設定	22
セクション 3： 文書の基本的な処理	24
文書の基本的な処理	24
処理設定の保存	26
設定の読み込み	26
出荷時の設定に戻す	26
ウィザードを使用	27
セクション 4： 認識オプションの選択	29
認識オプション	29
主要言語	29
その他の認識オプション (Readiris Pro と Corporate)	30

その他の認識オプション (Readiris Corporate のみ).....	31
詳細認識オプション.....	33
取得オプション.....	34
フォントの種類と文字ピッチ.....	35
バーコード.....	36
文書の処理.....	36
トレーニング・オプション.....	36
言語オプション.....	36
トレーニング・モード.....	37
セクション5： 文書をスキャンし開く.....	43
文書のスキャン.....	43
スキャナ設定の選択.....	43
文書のバッチのスキャン.....	48
画像ファイルを開く.....	51
画像ファイルを開く際のオプション.....	52
画像ファイルを開くための別の方法.....	53
画像ファイルのバッチを処理する.....	54
セクション6： 画質を調整する.....	57
セクション7： 認識した文書の編集.....	61
ページオプションの変更.....	61
認識ゾーンの編集.....	63
ゾーニングテンプレートを使用.....	70
テキストエディタを使用する.....	71
セクション8： 文書の保存.....	73
利用できる出力フォーマット.....	76
文書にプロパティを追加する.....	81
スキャンされた文書を画像ファイルとして保存.....	82
フォーマットオプションの選択.....	83
レイアウトオプション.....	84
一般オプション.....	87

SpreadsheetML オプション	88
用紙サイズ.....	89
写真.....	89
PDF オプションの選択.....	91
PDF 文書の圧縮.....	94
PDF 文書をパスワードで保護する.....	96
電子署名 PDF 文書.....	97
XPS オプションの選択.....	98
XPS 文書の圧縮.....	99
セクション9：文書をクラウドに送信する.....	101
コネクターの構成.....	101
文書の送信.....	103
インデックス付き文書をクラウドに送信する.....	104
方法.....	107
Readiris でスキャナを構成する方法.....	107
認識結果の改善方法.....	109
複数の文書をスキャンする方法.....	109
デジタルカメラの画像の処理方法.....	110
デジタルカメラで写真を撮る際のヒント.....	111
バーコードを認識する方法.....	112
文書のバッチを分割する方法.....	113
画像ファイルのバッチを分割する方法.....	116
フォームを認識する方法.....	117
低解像度画像の処理の仕方.....	118

Readiris 15

RI_15_dgi_25022015_05

Readiris の取扱説明書へようこそ。本書の目的は、Readiris が簡単に使用できるようにすることです。ここでは、Readiris のインストールと設定、基本的な処理手順、アプリケーションのコマンド、作業エリアについて説明されます。本書の末尾には、ユーザーの質問に答えるハウツーセクションがあります。

本書は、Windows® 7 オペレーティングシステムに基づいて説明されています。

本書は、ユーザーに Microsoft Windows 環境での作業経験があるものと仮定して説明されています。メニューコマンド、ダイアログボックス、ドロップダウンリスト、ドッキングウィンドウなどに不慣れな方は、必要に応じて Windows の文献をお読みください。

本書の情報は、予告なく変更される場合があります。

Readirism の追加情報は、[ヘルプ] メニューを開いてご覧ください。そこから、「開始ガイド」ビデオ、ナレッジベース、I.R.I.S. サポートなどにアクセスできます。

Readirisについて

Readiris は、I.R.I.S.の旗艦文書認識ソフトウェアです。Readiris を使用すると、用紙文書をスキャンしたり、画像ファイルやデジタルカメラの画像を開いて、それらを編集可能なテキスト文書やテキスト検索可能な PDF 文書に変換し、それを保存または共有したり、クラウドに送信することができます。Readiris は各種の出力フォーマットに対応しています。特に重要な出力フォーマットとして、Microsoft Word、Microsoft Excel、PDF が挙げられます。

Readiris が生成する文書は、コンピュータに保存したり、電子メールで直接送信したり、Evernote、Dropbox、Google Drive、Box、OneDrive などのクラウドアプリケーションにエクスポートすることができます。Readiris Corporate を使用すると、文書を Microsoft SharePoint や Therefore にも送信できます。

Readiris は 137 言語の文書が認識できます。中欧、バルト海諸国、キリル文字の言語、およびギリシャ語やトルコ語を含むアメリカとヨーロッパの言語すべてに対応しています。

Readiris はアラビア語やペルシア語（ファルシ）、ヘブライ語、アジア 4 カ国の言語（日本語、繁体字中国語、簡体字中国語および韓国語）も読み込むことができます。（日本語、繁体字中国語、簡体字中国語および韓国語）も読み込むことができます。

Readiris には、テキスト認識機能だけでなく、I.R.I.S.圧縮テクノロジーである iHQC を利用した、PDF および XPS ファイルの強力な圧縮機能も装備されています。

Readiris 15の新機能

- 新しいインターフェース
- テキストエディタ
- トレーニング・モード
- 新しい出力形式：.epub と .wav
- アジア言語認識の改善
- PDF 入力の改善
- 射影歪みの補正
- 開いたページのダイナミックズーム
- PDF 文書の追加機能

新しいインターフェース

Readiris のインターフェースは Microsoft Office 2013 のような外観に更新されました。

ヒント：新しいインターフェースの詳細については、「[インターフェースを利用する](#)」の項を参照してください。

テキストエディタ

Readiris にはテキストエディタが採用され、ドキュメントの認識結果を保存または送信する前に、それを編集することができるようになりました。テキストエディタで、認識後のテキストとスキャンされた元のテキストを比較し、必要な変更を行います。

トレーニング・モード

トレーニング・モードにより、フォント、文字の形状に関し認識システムを訓練し、必要に応じて OCR 結果を修正できます。トレーニングプロセスの際に、認識システムがはっきりとは認識できない文字は、その文字を含む語と Readiris によって提案される結果とともにプレビューウィンドウに表示されます。

トレーニング・モードは、認識システムの精度を大幅に強化し、特に歪んだり、損傷した用紙を認識する場合に便利です。また、トレーニングは、Readiris が最初は認識できない特殊記号に関する訓練にも使用できます。その例として、数学記号、科学記号、絵記号などが挙げられます。

新しい出力形式：.epub と .wav

EPUB：電子書籍やウェブ出版向けのオープン規格です。EPUB は、電子書籍リーダーで文書を表示する際に最適なフォーマットです。

WAV：文書を .wav 形式で保存すると、テキストを読み上げることができます。

アジア言語認識の改善

簡体字中国語、繁体字中国語、日本語、韓国語およびこれら 4 つのアジア言語の組み合わせ言語を認識する際に、OCR の結果を改善する新しいエンジンが使用されています。

PDF 入力の改善

PDF 入力モジュールの新規改善版が使用されています。暗号化された PDF ドキュメントを開くことができます (パスワードを知っている場合)。

射影歪みの補正

Readiris で、不適切な角度でスキャンまたは撮影された画像の射影歪みを補正する機能が適用できるようになりました。この機能は、画像全体をまっすぐにして OCR が成功するようにします。

開いたページのダイナミックズーム

[ページ] パネルで、手動でサムネールを拡大・縮小できるようになりました。

PDF 文書の追加機能

Readiris 15 では、既存の PDF 文書にページを追加することができます。既に存在する PDF ドキュメントに新しいスキャンを保存すると、その既存ドキュメントに新しいページを追加することができます。

利用条件

著作権

Copyrights © 1987-2015 I.R.I.S.All Rights Reserved.

I.R.I.S. は、Readiris ソフトウェア、オンラインヘルプシステムおよび本出版物の著作権を有します。

本資料に記載されている情報は、I.R.I.S. の所有物です。コンテンツは、予告なく変更されることがあり、I.R.I.S. はコンテンツについて公約を表明しません。本資料で説明されているソフトウェアは、本製品のご利用条件が記載されているライセンス契約に基づいて提供されます。本ソフトウェアは、契約条件に従ってのみ使用またはコピーを行うことができます。本出版物のいかなる部分も、I.R.I.S. の書面による事前の許可を得ずに検索システムに複製、転送、保管したり、別の言語に翻訳したりすることはできません。

本出版物は、実演を行うために架空の名前を使用しています。実在の人物、企業または組織が言及される場合、まったくの偶然によるものです。

商標

Readiris ロゴ、および Readiris は、Image Recognition Integrated Systems S.A. の商標です。

I.R.I.S. による OCR とバーコードテクノロジー。

I.R.I.S. による AutoFormat と言語テクノロジー。

I.R.I.S. による BCR、およびフィールド分析テクノロジー。

I.R.I.S. による iHQC 圧縮テクノロジー。

Windows は、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の登録商標です。

本出版物で参照しているその他の全製品は、各企業の商標または登録商標であり、各企業に帰属します。

特許

Readiris は特許で保護されています。詳細に関しては、リリースノートをご参照ください。

セクション 1： インストールとアクティベーション

システム動作環境

Readiris をインストールして実行する際の最低システム動作環境は以下の通りです。

コンポーネント	動作環境
コンピュータとプロセッサ	1GHz またはそれ以上の速度のプロセッサ。マルチコアプロセッサを推奨。 注意：マルチコアプロセッサが搭載されているコンピュータでは、Readiris は複数のコアを使用するので、処理が速くなります。
メモリ	1 GB 以上の RAM。2 GB RAM を推奨。
ハードディスク	300 MB 以上のハードディスク空き容量。1 GB のハードディスク空き容量を推奨。
オペレーティングシステム	Windows 8.1、Windows 8、Windows 7、Windows Vista、Windows XP (Service Pack 3 をインストール)。すべて 32 または 64 ビット。 Windows 7 以降を推奨。
その他	CD-ROM ドライブまたはインターネット接続。 スキャナドライブの一部は、Windows 最新バージョンで稼働しない場合がありますのでご注意ください。サポートされているプラットフォームに関しては、スキャナに同梱されていた文書をご参照ください。

Readirisのインストール

Readiris をインストールしてみる前に、お使いのコンピュータにアプリケーションがインストールできる、**管理者の権利**を有していることを確認してください。

Readiris をインストールするには：

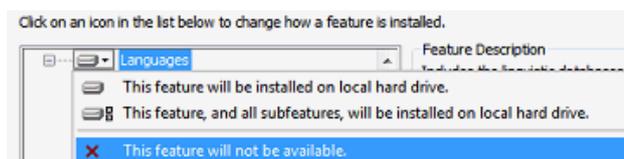
- コンピュータの CD-ROM ドライブに Readiris CD-ROM を挿入します。
- [AutoRun] ウィンドウが表示されたら、[Readiris] をクリックします。するとインストールウィザードが起動します。

[AutoRun] ウィンドウが表示されない場合 (Windows の設定によって異なる)：

- [コンピュータ] > [CD-ROM ドライブ] をクリックします。
- DVD ドライブアイコンをダブルクリックし、**setup.exe** をダブルクリックすると、インストールウィザードが起動します。
- インストール言語を選択して[OK]をクリックします。
- ライセンス契約の規約を受諾します。
- 出荷時の設定では、**[完全インストール]**が選択されています。

特定の認識言語のみをインストールしたい場合：

- [カスタム] を選択して [次へ] をクリックします。
- [言語] の前にある下向き矢印をクリックし、**[この機能は利用できません]** を選択します。
すると、すべての言語の選択が外されます。



- インストールしたい言語の前にある下向き矢印をクリックし、**[ローカルハードドライブにこの機能がインストールされます]** を選択します。
- [次へ] をクリックし、画面上の指示に従います。
- [完了] をクリックしてインストールを完了します。
インストールプログラムにより、サブメニューの「IRIS」 > 「Readiris」が Windows[プログラム]メニューに自動的に作成されます。
インストールプログラムはまた、Windows デスクトップに Readiris アプリケーションのショートカットを作成します。



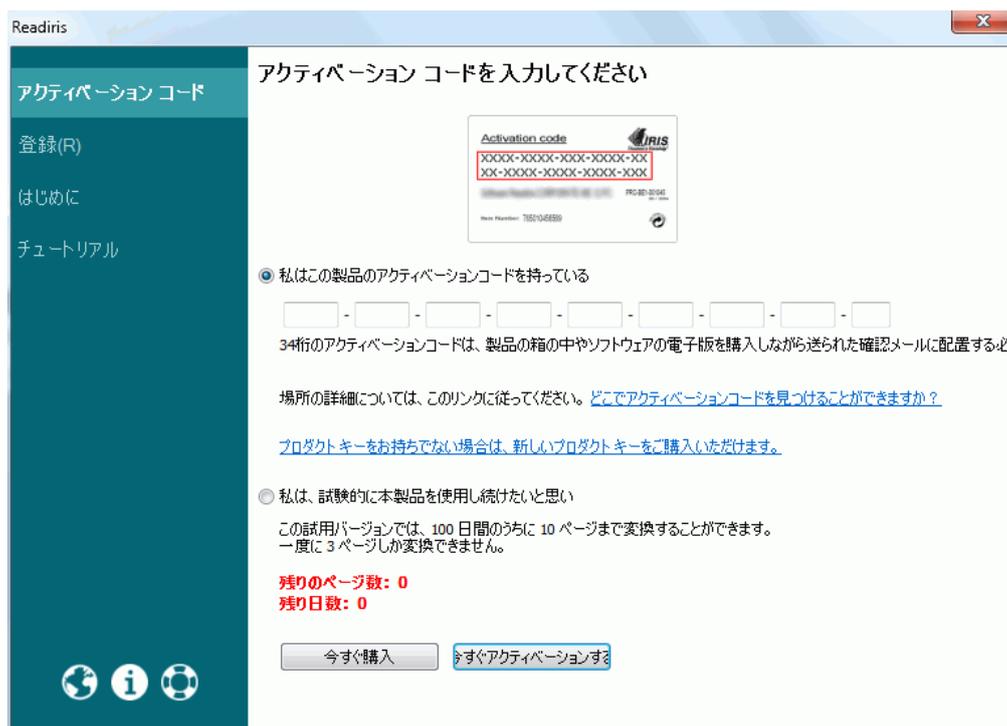
Readirisのアクティベーション

Readiris をインストールしたら、アクティベーションする必要があります。

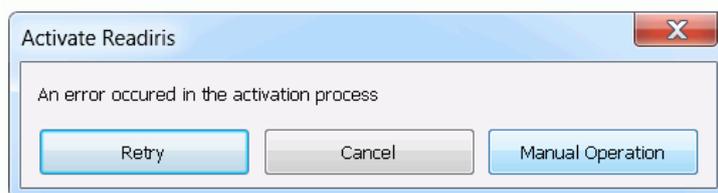
注意：アクティベーションしていない Readiris は、一度に 3 ページまで、かつ、10 日間に 100 ページまでしか変換できません。

Readiris をアクティベーションするには：

- デスクトップのショートカットをダブルクリックすると Readiris が起動します。
- Readiris をアクティベーションするよう指示されます。[はい] をクリックします。Readiris のアクティベーションにはインターネットへの接続を必要とします。
- DVD ボックス内側のラベルに記載されたアクティベーションコードを入力します。
注意：ESD バージョンをダウンロードした場合、アクティベーションコードは電子メールで送られてきます。
- [OK] をクリックして、アクティベーションを終了します。



ヒント：アクティベーション プロセスでエラーが発生した場合、手動でアクティベーションすることもできます。



それでもエラーが発生する場合、ファイアウォールを解除して再試行してください。必要に応じて Windows ヘルプをご覧ください。デスクトップが表示されているときに、キーボードの f1 を押すと、ヘルプが表示されます。

ソフトウェアの登録

ソフトウェアを起動したら、登録することができます。

技術サポートを受けるには登録が必要です。それ以外にも、無料アップデート、無料試用ダウンロード、ビデオチュートリアル、新製品の割引などの特典を受けることができます。

Readiris の登録の仕方:

- [ヘルプ] タブをクリックします。
- [Readiris の登録] をクリックします。



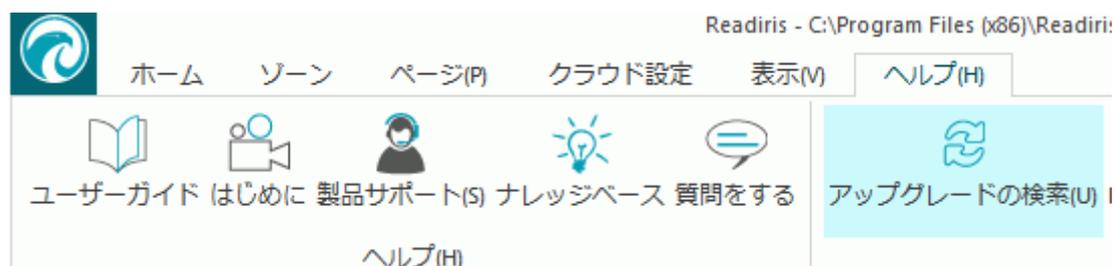
- 登録フォームを記入し、[今すぐ登録する] をクリックしてください。登録にはインターネットへの接続を必要とします。

アップデートをチェックする

お使いの Readiris を登録すると、無料でソフトウェアをアップデートすることができます。

アップデートの有無を確認するには：

- [ヘルプ] タブをクリックします。
- 次に [アップグレードの検索] をクリックします。
注意：Readiris は、30 日おきに、自動的にアップデートがあるかどうかを確認します。

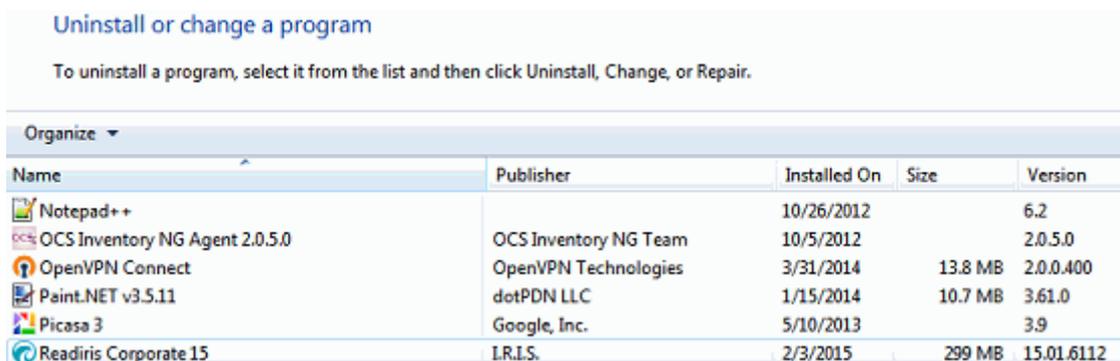


Readirisのアンインストール

コンピュータから Readiris を削除するには、次の手順に従ってください。

アプリケーションをアンインストールするには：

- Readiris を閉じます。
- Windows の [スタート] メニューで [コントロールパネル] を開きます。
- [プログラムおよび機能] をクリックします。
- リストから [Readiris] を選択し、[アンインストール] をクリックします。

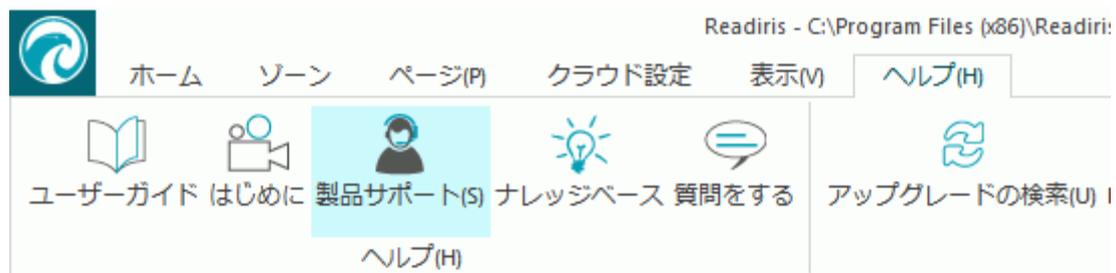


技術サポート

お使いの Readiris を登録すると、無料で技術サポートを受けることができます。

技術サポートにアクセスするには：

- [ヘルプ] タブをクリックします。
- [製品サポート] をクリックします。



[ヘルプ] メニューから、「開始ガイド」ビデオやナレッジベースにアクセスしたり、弊社に質問をすることができます。

セクション 2：はじめに

Readiris を初めて使う

Readiris を実行する仕方:

- デスクトップの Readiris アイコンをダブルクリックします。



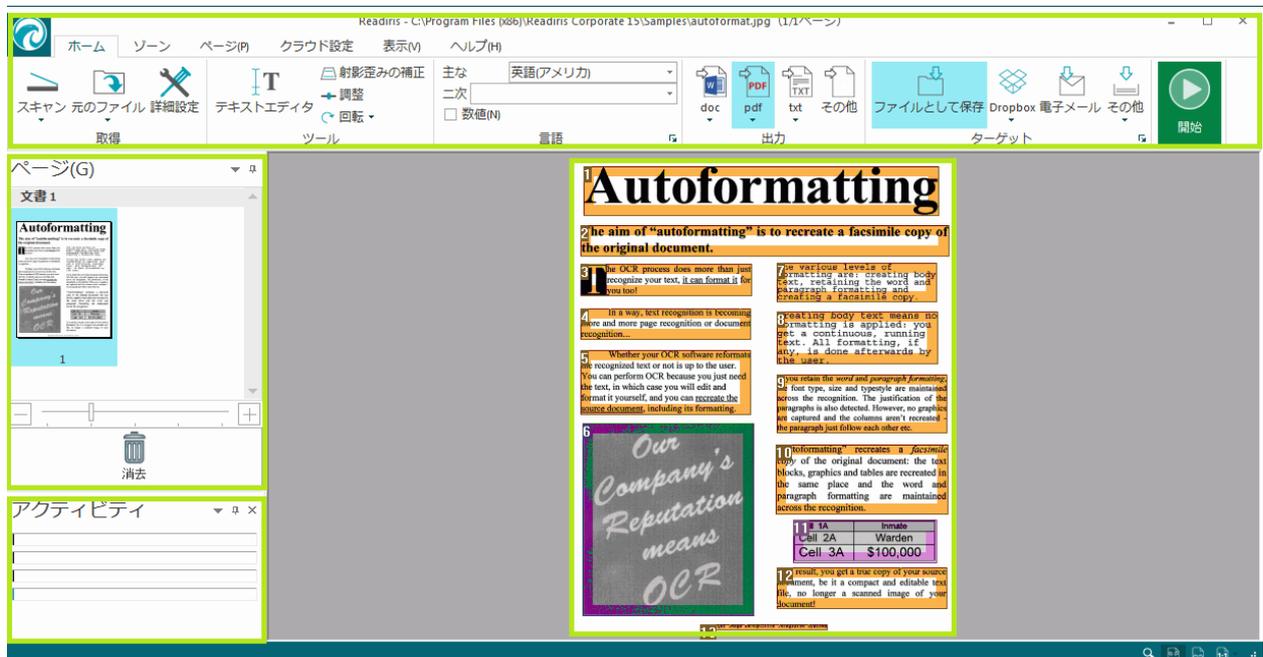
もしくは、次のように、Windows の [プログラム] リストから Readiris を起動します。

- [スタート] > [すべてのプログラム > [IRIS] > [Readiris] をクリックします。



インターフェースを利用する

新しい Readiris インターフェースは、以下のようになっています。



インターフェースは以下の各コンポーネントやパネルで構成されています。

1. リボン

Readiris では、リボンはきわめて重要なツールです。これには、文書の処理に必要なコマンドがすべて含まれています。コマンドはグループごとに分類されています。グループはタブの中を集められています。

ヒント：文書をスキャンしたり開く前に、**言語設定**を実行するようお勧めします。

ヒント：各コマンドにカーソルをポイントすると、ツールチップが表示されます。ツールチップには、コマンドによって実行される処理が説明されています。



注意：リボンを自動非表示にするには、**[表示]**メニューで対応するオプションを選択します。

2. ページパネル

[ページ] パネルに、Readiris でスキャンしたり開いたページのサムネイルが表示されます。

ページの順番を変更するには、1つの場所から別の場所にページをドラッグします。ページを右クリックして対応するアクションを選択すると、ページを上下に移動させたり、削除することができます。

スライダーでサムネイルが拡大・縮小できます。これを使用すると、サムネイルを、もっと多くの列にわたって表示することができます。

全ページを削除するには **[クリア]** をクリックします。



3. アクティビティパネル

アクティビティ]パネルには、Readiris が現在実行しているタスクが表示されます。各ワールドには、タスクの説明、ならびに、どのページでアクティビティが実行されているかが表示されます。

注意：コンピュータのコア数が多いほど、処理が速く実行されます。ただし、Readiris で実行できるスレッドの数は 4 つに制限されているので、コア数を 5 以上に増やすメリットはありません。



4. スキャンされた画像

文書が Readiris でスキャンされたり、文書が開くと、その画像が表示されます。さまざまな認識ゾーンが表示されます。認識ゾーンの変更方法については、[認識ゾーンの編集](#)を参照してください。



上で説明したコンポーネントやパネルの外観は、好みに応じてカスタマイズできます。

インターフェースのカスタマイズ

インターフェースはさまざまな方法でカスタマイズできます。

リボンの自動非表示

リボンを非表示にするには、[表示]メニューで対応するオプションを選択します。

パネルの自動非表示

Readiris インターフェースのスペースを節約するために、パネルを自動的に非表示にすることができます。

- パネルの [自動非表示] アイコンをクリックすると、非表示になります。



- パネルが非表示になると、その名前が、左または右のサイドバーに垂直に表示されます。

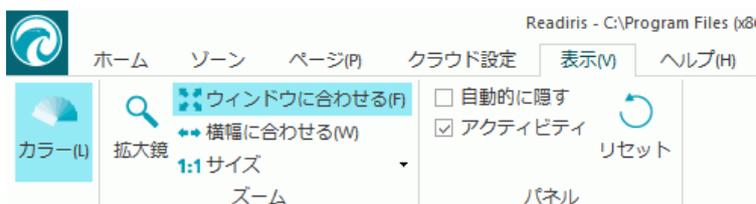


- 名前にカーソルを当てると、パネルが現れます。
- 自動非表示機能を無効にするには、[自動非表示] アイコンをもう一度クリックします。

パネルの非表示

パネルを完全に非表示にしたい場合：

- **表示** メニューをクリックします。
- [アクティビティ] パネルを非表示にするには、[アクティビティ] ボックスを消去します。



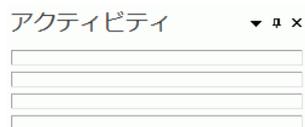
- もしくは、パネル横の下向き矢印をクリックして、**[非表示]** を選択します。

パネルの移動

パネルには定位置というものはありません。Readiris インターフェース内であれば、どこにでも配置できます。

パネルを移動するには：

- タイトルバーをダブルクリックします。



- インターフェースの中央にパネルが縮小表示されます。
- 好みの位置にドラッグしたり、拡張することができます。



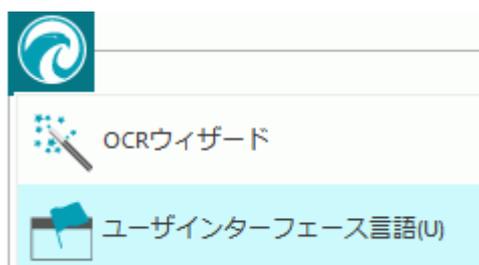
- パネルを元の位置に戻したい場合、タイトルバーをもう一度ダブルクリックします。

注意：一度実行した変更をやり直すと、工場出荷時の初期設定に戻すことができます。これを実行するには、左上の Readiris ボタンをクリックしてから、[出荷時の設定に戻す] をクリックします。

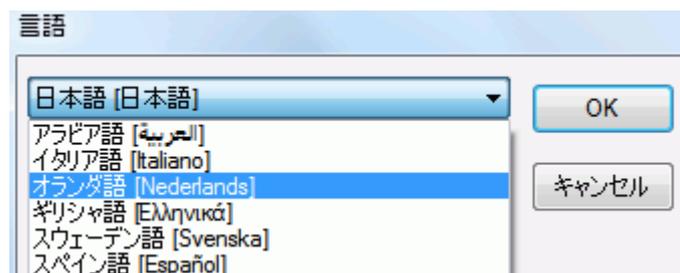
ユーザインターフェース言語の変更

出荷時の設定では、Readiris は英語で開きます。インターフェース言語を変更するには：

- 左上の [Readiris] ボタンをクリックし、[ユーザーインターフェース言語] をクリックします。



- [言語] ウィンドウが開いたら、希望の言語を選択し、[OK] をクリックします。



注意：間違った言語を選択した場合は、Readiris 内で **Ctrl+U** をクリックします。[言語] ダイアログボックスが開くので、リストから別の言語が選択できます。

スキャナの設定

Readiris で文書をスキャンするにはスキャナを正しく設定する必要があります。

Readiris でスキャナを設定する前に：

1.1. PC にスキャナが接続され、電源が入っていることを確認してください。

注意：USB ケーブルでスキャナがコンピュータに物理的に接続されていることを確認します。メーカーから提供された Twain ドライバがイーサネットやワイヤレス接続に対して設定されている場合、それらを使用することもできます。

2.スキャナに、最新 Twain ドライバがインストールされていることを確認します。

通常、ドライバは、スキャナメーカーの Web サイトにあります。I.R.I.S.ではドライバを提供しません。スキャナドライブの一部は、Windows 最新バージョンで稼動しない場合がありますのでご注意ください。サポートされているプラットフォームに関しては、スキャナに同梱されていた文書をご参照ください。必要に応じて、スキャナのメーカーにお問合せください。

設定

- リボンの[スキャン]の下にある下向き矢印をクリックします。
- 次に [設定] をクリックします。



- 初めてこれを実行したときには、自動的に [スキャナ モデル] リストが開きます。このリストでお使いのスキャナプロファイルを選択します。スキャナプロファイルを使用すると、お使いのスキャナ専用の機能にアクセスできます。例：両面スキャンなど。

リスト中にお使いのスキヤナが見つからない場合でも心配はいりません。スキヤナの中には、専用のスキヤナプロファイルを持たないものもあります。

重要：正確なプロファイルが見つからない場合でも、似たようなプロファイルは**選択**しないでください。代わりに汎用 Twain プロファイルを選択してください。別の Twain プロファイルが利用できます。

通常のフラットベッドスキヤナを使用している場合、

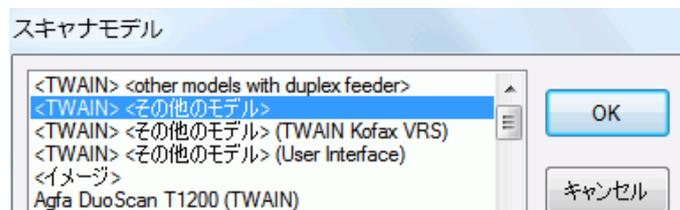
<Twain><OTHER MODELS> を選択します。

スキヤナのユーザーインターフェースを使用して文書をスキャンしたい場合、

<Twain><OTHER MODELS>(ユーザーインターフェース)を選択します。

ページの表裏をスキャンする両面スキヤナを使用したい場合、

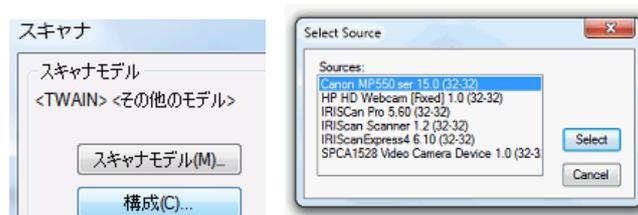
<Twain><OTHER MODELS with duplex feeder>を選択します。



スキヤナモデルを選択したら、スキヤナドライバを設定する必要があります。

- [設定] をクリックし、スキヤナドライバを選択します。

[ソースの選択] ウィンドウにお使いのスキヤナが見つからない場合、スキヤナドライバは正しくインストールされていません。スキヤナドライバをもう一度インストールしてから、Readiris を設定しなおしてください。通常、スキヤナドライバは、スキヤナメーカーの Web サイトにあります。



注意：メインツールバーで直接スキヤナドライバーを設定することもできます。[スキャン] ボタンの下にある下向き矢印をクリックし、[ソースの選択] をクリックします。

スキヤナの設定が終わったら、出荷時のスキヤナ設定を使って、スキャンを開始することができます。各スキヤナの設定方法やその変更方法については、[スキヤナ設定の選択](#)をご覧ください。

セクション 3： 文書の基本的な処理

文書の基本的な処理

Readiris による文書の処理は、基本設定を使用するときわめて簡単にできます。このトピックでは、基本設定を実行する際の手順について説明します。設定手順に関する詳細は、第 4～9 項をご覧ください。

操作を開始する前に：

[言語] グループで [主な文書の言語] を選択します。

Readiris で良好な認識結果を得るには、文書の言語を正しく選択することが非常に重要です。認識言語は、インストール中に選択した言語に設定されています。

注意：文書を開いた後も言語を変更することはできますが、その場合、文書全体の認識を再実行しなければなりませんのでご注意ください。当然ですが、これによってプロセスが遅くなります。



文書の処理

ステップ 1：文書を [スキャン] するか [開き] ます。

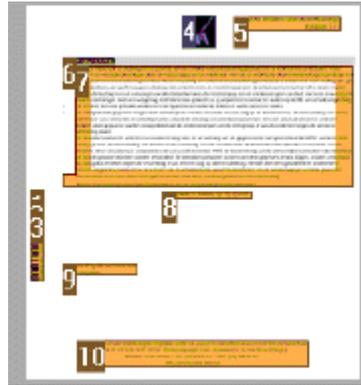
- [スキャン] をクリックすると、スキャナで用紙文書がスキャンされます。
文書をスキャンするにはスキャナを正しく設定する必要があります。必要に応じて、「[スキャナの設定](#)」の項を参照してください。

または、

- [ファイルの読み込み元] をクリックして、既存の画像ファイルを開きます。



インターフェースに画像が表示されます。必要に応じて、認識ゾーンを修正することができ、さらに認識したテキストを修正することもできます。その詳細については、[認識した文書の編集](#) の項を参照してください。



ステップ2：出力フォーマットを選択します。

- [出力] グループから好みの出力フォーマットを選択します。
このグループには、最近使用された3つの出力フォーマットが表示されます。



- 選択したフォーマットの初期設定を変更するには、その下にある下向き矢印をクリックし、その設定をクリックします。
各出力フォーマットやフォーマットオプションの違いについては、「[文書の保存](#)」と「[フォーマットオプションの選択](#)」の各項をご覧ください。
- 別の出力フォーマットを選択するには、[その他] をクリックします。

ステップ3：送信先を選択します。

- [ターゲット] グループから好みの送信先を選択します。
このグループには、最近使用された3つの送信先が表示されます。
 - お使いのコンピュータやポータブルストレージデバイスの中に文書を保存するには、[ファイルとして保存] を選択します。
 - 文書を電子メールで送信するには [電子メール] を選択します。
 - 文書をクラウドに送信するには、[クラウドアプリケーション] を選択します。
クラウドアプリケーションへの接続を正しく設定しないと、エクスポートできません。その方法については、「[文書をクラウドに送信する](#)」セクションを参照してください。
- 別の出力フォーマットを選択するには、[その他] をクリックします。

以上の手順が済んだら、[開始] をクリックすると、文書の処理が開始されます。



ヒント：

Readiris の設定について手助けが必要な場合には、[ウィザード]をお使いください。ウィザードでは、設定方法が順を追って説明されます。各手順の詳細については、「[ウィザードを使用](#)」セクションを参照してください。

処理設定の保存

Readiris では、アプリケーションを閉じる際に、処理設定が自動的に保存されます。次回 Readiris を使用する際に、同じ設定が適用されます。

特定の設定プロファイルを保存したい場合：

- [Readiris]ボタンをクリックします。
- 次に [設定を保存] をクリックし、設定ファイルに名前を付けます。

設定の読み込み

- [Readiris]ボタンをクリックします。
- 次に [設定を読み込む] をクリックし、保存した設定ファイルを選択します。

出荷時の設定に戻す

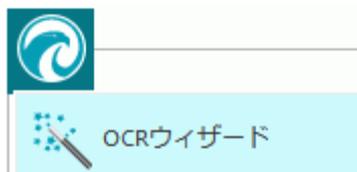
- [Readiris]ボタンをクリックします。
- 次に [出荷時の設定に戻す] をクリックします。

ウィザードを使用

ウィザードでは、設定方法が順を追って説明されます。全部の手順を実行した後で[起動]をクリックすると、自動的に Readiris プロセスが開始されます。

ウィザードを開始するには：

- [Readiris] ボタンをクリックし、[ウィザード] をクリックします。



ウィザードのステップ

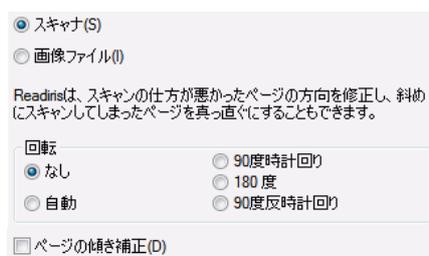
ステップ1：画像ソースを選択します。

お使いのスキヤナを使用して文書をスキャンするか、既にコンピュータの中に保存されている画像ファイルを開きます。

この最初のステップでは、[回転] オプションを適用することもできます。

斜めにスキャンされた文書をまっすぐに直したい場合には、[ページの傾き補正] を選択します。

ステップ1の図



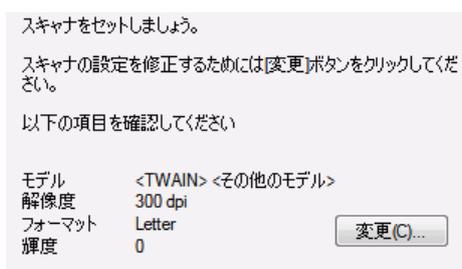
ステップ2：お使いのスキヤナを選択します

(注意：前のステップで画像ファイルを選択した場合には、ステップ3に進んでください)。

スキヤナの設定が済んでいる場合、ここにスキヤナのモデル名が表示されます。スキヤナの設定がまだ済んでいない場合、[スキヤナモデル] のリストが表示されます。お使いのスキヤナと全く同じスキヤナモデル名を選択し、[設定] をクリックして、ドライバを設定します。

スキヤナの設定方法の詳細については、「[スキヤナの設定](#)」のセクションを参照してください。スキヤナ設定の詳細については、「[スキヤナ設定の選択](#)」のセクションを参照してください。

ステップ 2 の図

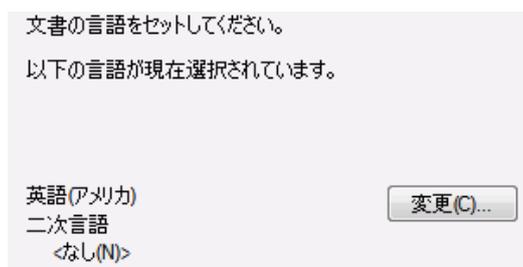


ステップ 3：文書の言語を選択します。

認識言語は、インストール中に選択した言語に設定されています。別の言語を選択するには、[変更] をクリックします。

注意： 良好な認識結果を得るには、文書の言語を正しく選択することが非常に重要です。

ステップ 3 の図

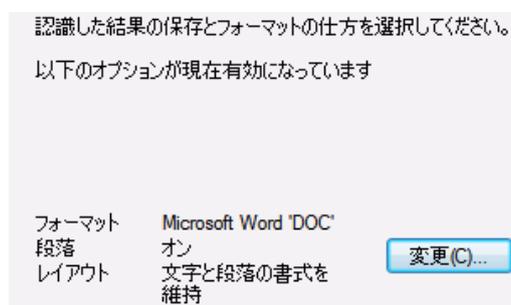


ステップ 4：出力フォーマットと (クラウドの) 送信先を選択します。

出荷時の設定では、文書は、.docx ファイルとして保存されます。別の出力フォーマットや送信先のアプリケーションを選択するには、[変更] をクリックします。

各出力フォーマットやそのオプションの違いについては、[\[文書の保存\]](#) と [\[フォーマットオプションの選択\]](#) の各項目をご覧ください。

ステップ 4 の図



設定が選択できたら、[次へ] をクリックし、[起動] をクリックすると、文書の処理が開始されます。

セクション 4： 認識オプションの選択

認識オプション

Readiris は、スキャンされた画像や画像ファイルや PDF ファイルを、編集可能なテキスト文書や検索可能な PDF 文書に変換します。Readiris に画像中のテキストを認識させるには、適切な認識オプションを起動する必要があります。

ヒント：Readiris で文書をスキャンしたり開く前に、文書認識オプションを設定するよう、お勧めします。その理由は、Readiris は、複数のページを開いたりスキャンすると同時に、文書の認識を実行するからです。

認識オプションは、[言語] グループの中にあります。



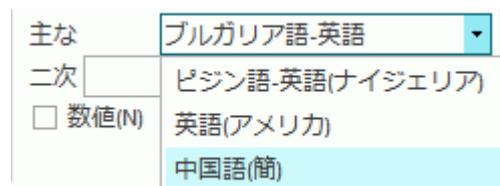
各オプションの概要を下で説明します。

主要言語

主要言語は、最も重要な認識オプションです。文書認識の質は、適切な認識言語を選択するか否かで決定されます。認識言語は、インストール中に選択した言語に設定されています。

別の言語を選択するには：

- [メイン] リストの右側にある下向き矢印をクリックし、希望の言語を選択します。



その他の認識オプション (Readiris Pro と Corporate)

数値文書の認識

数字のみで、ほとんどまたはまったくテキストを含まない文書进行处理するには、**[数値]** オプションを選択するようお勧めします。

このオプションを選択すると、Readiris は、数字 0~9 と下記の記号のみを認識します。

+	*	/	%	,
プラス記号	星印	スラッシュ	パーセント記号	コンマ
.	()	-	=
ピリオド	左丸括弧	右丸括弧	ハイフン	イコール記号
\$	£	€	¥	
ドル記号	ポンド記号	ユーロ記号	円記号	

キリル文字、スラブ語、ギリシャ語で西洋諸語の単語を認識

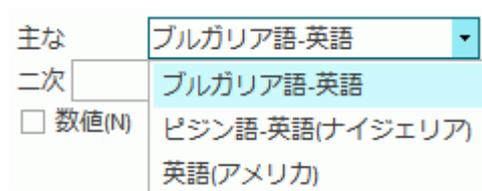
固有名詞など、ラテンアルファベットで書かれた「西洋」諸語を含むキリル文字、スラブ語、ギリシャ語の文書进行处理するには、使用可能な**言語ペア**の中から適切なものを選択するようお勧めします。

言語ペアは、常に英語と組み合わせられるようになっており、ロシア語、ベルラーシ語(白ロシア語)、ウクライナ語、セルビア語、マケドニア語、ブルガリア語、ギリシア語で利用できます。

言語ペアを選択するには：

- [メイン] リストの右側にある下向き矢印をクリックします。
- 必要な言語ペアを選択します。

例



スピードと精度

Readiris Corporate では、認識のスピードと精度のいずれを重視するかを選択することができます。

ヒント：低品質の画像を処理する際には、この機能を「精度」に設定するよう、お勧めします。これにより、結果が著しく改善されます。

スピードと精度のいずれを重視するか選択するオプションにアクセスするには：

- 言語] グループの拡大矢印をクリックします。



- スライダーを「スピード」に移動すると処理が速くなります。
- スライダーを「精度」に移動すると認識結果が改善されます。

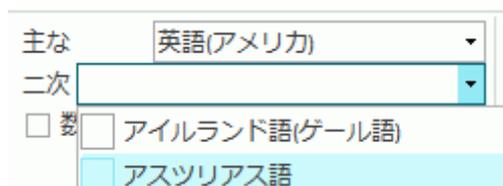


その他の認識オプション (Readiris Corporateのみ)

一つの文書で二次言語を認識

文書に複数の言語のテキストが含まれる場合、主な認識言語を選択し、複数の二次言語を組み合わせるようお勧めします。最高で4つの言語まで選択することができます。

- [二次言語] リストの右側にある下向き矢印をクリックし、必要な言語のボックスにチェックマークを入れます。
- 選択されている主な認識言語で利用できない二次言語は、薄い色で表示されています。



アラビア語の文書を認識

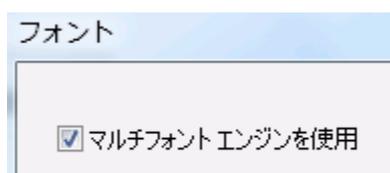
Readiris Corporate でアラビア語の文書を認識する場合、「オムニフォント」と「マルチフォント」のどちらの認識エンジンを使用するか選択することができます。

Readiris の出荷時の設定では、全フォントを認識する「オムニフォント」エンジンを使用するようになっています。最良の認識結果を得るには、「マルチフォント」エンジンを使用するようお勧めします。すると、文書で使用されているフォントを選択することができます。

- [言語] グループの拡大矢印をクリックします。
- 「主要言語」リストから「アラビア語」を選択します。すると、[フォント] ボタンが使用できるようになります。



- [フォント] ボタンをクリックし、[マルチフォント エンジンを使用] を選択します。



- 左の列から認識したいフォントを選択し、右向き矢印をクリックして右の列に移動させます。



注意：マルチフォント エンジンを選択した場合、実際には、Readiris は、「オムニフォント」と「マルチフォント」の両方のエンジンを使用して認識を行い、その後で投票機構を使用して最良の結果を選択します。マルチフォントエンジンを重視したい場合には、スライダーを右に移動します。スライダーをゼロに移動すると、マルチフォントエンジンは使用されないご注意ください。

ヒント：正しい認識オプションを選択したにもかかわらず認識結果に満足できない場合、文書の画像の質が不十分であることが考えられます。この問題を解決するには、「[画質を調整する](#)」セクションを参照してください。

詳細認識オプション

文書の言語に続き、フォントの種類や文字ピッチなど、文書の処理で大切な役割を果たす他の詳細オプションが設定できます。

詳細認識オプションにアクセスするには、[ホーム] タブで [詳細設定] をクリックします。



注意：詳細設定オプションには、以下の方法でもアクセスできます。

- [Readiris] ボタンをクリックし、[詳細設定] をクリックします。



- [言語] グループの拡大矢印をクリックします。



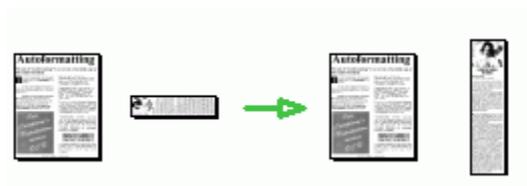
取得オプション

Readiris で文書をスキャンしたり開く前に、多数の**取得オプション**を設定することができます。これらのオプションは、認識の結果を改善する上で役に立ち、文書をスキャンしたり開く際に実行されます。

回転オプション

Readiris は、文書を、右に 90°、180°、左に 90° 回転させることができます。

同じ向きになっていない多数の文書进行处理する場合には、**[自動]** を選択します。すると、Readiris は、自動的に、文書を正しい向きに回転させます。



注意：文書が正しい方向、すなわち、スキャン面を向いていることを確認してください。さもないと、Readiris は文書を回転させることができません。

ページの歪み補正

斜めにスキャンされた文書をまっすぐにする必要がある場合には、このオプションを選択してください。



選択した**取得オプション**で希望の結果が得られなかった場合、ドキュメントをスキャンしたり開いた後で、手を変更することができます。セクション7を参照してください。その方法については、「[認識した文書の編集](#)」セクションを参照してください。

フォントの種類と文字ピッチ

フォントの種類

Readiris は、「標準」と「ドットマトリックス」で印刷した文書を識別します。ドットマトリックス プリンタは、個別の点から形成されて文書を作成するプリンタです。

ドットマトリックス文書を認識するには、特殊な分割と認識技術が必要であり、それを有効にしなければなりません。

Far out in the uncharted back

フォントの種類を選択方法:

- [Readiris] ボタンをクリックし、[詳細設定] をクリックします。
- [フォントの種類] タブをクリックします。
- フォントの種類は、出荷時の設定では [自動] に設定されています。

自動の場合は、Readiris は「24 ピン」、「NLQ」(Near Letter Quality)ドットマトリックス、または他の「標準」印刷かを認識します。

- ドットマトリックス文書だけを認識する場合は、[ドットマトリックス] をクリックします。

Readiris は、いわゆる「ドラフト」、または「9 ピン」ドットマトリックス印字の文書を認識します。

文字ピッチ

文字ピッチとは、特定フォントの1インチ当りの文字数ことです。文字ピッチは、すべての文字幅が同一の[等幅]、または文字によって幅が異なる[プロポーショナル]に設定できます。

文字ピッチの選択方法:

- [Readiris] ボタンをクリックし、[詳細設定] をクリックします。
- [フォントの種類] タブをクリックします。
- 文字ピッチは、出荷時の設定では [自動] に設定されています。
- フォントの文字すべてを同じ幅にそろえる場合は、[等幅]をクリックします。旧式のタイプライターの文書は、よく等幅フォントになっています。
- フォントの文字の幅を同一にしない場合は、[プロポーショナル]をクリックします。実質的には、新聞、雑誌、書籍のフォントすべてが、プロポーショナルになっています。



重要：これらの文書の特徴は、アジア諸語、ヘブライ語、アラビア語の文書には適用されません。

バーコード

バーコードの処理については、以下の対応するハウツーセクションで説明されています。[バーコードを認識する方法](#)。

文書の処理

文書処理のオプションについては、以下の対応するハウツーセクションで説明されています。[文書のバッチを分割する方法](#)。

トレーニング・オプション

トレーニングのオプションについては、以下のセクションで説明されています。[トレーニング・モード](#)。

言語オプション

言語オプションについては、既に、[認識オプション](#)で説明されています。

トレーニング・モード

認識結果を改善するには、Readiris のトレーニング・モードを使用することができます。トレーニングにより、フォント、文字の形状に関し認識システムを訓練し、必要に応じて OCR 結果を修正できます。トレーニングプロセスの際に、認識システムがはっきりとは認識できない文字は、その文字を含む語と Readiris によって提案される結果とともにプレビューウィンドウに表示されます。



1	Readiris が認識できない文字。
2	認識できない文字を含む語。
3	どう認識すべきか Readiris が提案する語

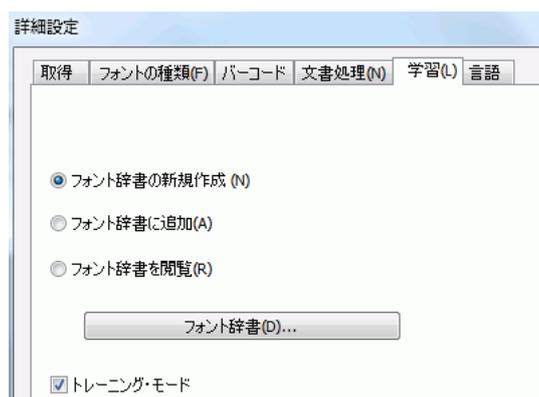
トレーニングは、認識システムの精度を大幅に強化し、特に歪んだり、損傷した用紙を認識する場合に便利です。トレーニングは、Readiris が最初は認識できない特殊記号に関する訓練にも使用できます。その例として、数学記号、科学記号、絵記号などが挙げられます。

注意：トレーニングは認識の際に行われます。トレーニングの結果は、認識の間、一時的にコンピュータメモリに保存されます。Readiris は、残りの文書を OCR しているときに、トレーニングされた文字をそれ以降は表示しません。新規文書が OCR されたときに、トレーニングの結果は消去されます。トレーニングの結果を恒久的に保存するには、トレーニング・モードと一緒にフォント辞書を使用します。

ヒント：後で認識結果を編集する必要がある場合には[テキストエディタ](#)を使用することができます。その詳細については、[\[認識されたドキュメントの編集\]](#)のトピックを参照してください。

トレーニング・オプションへのアクセス

- [ホーム] タブで [詳細設定] をクリックします。
- または、[言語] グループの拡大矢印をクリックします。
- [トレーニング] タブをクリックします。
- [トレーニング・モード] を選択します。



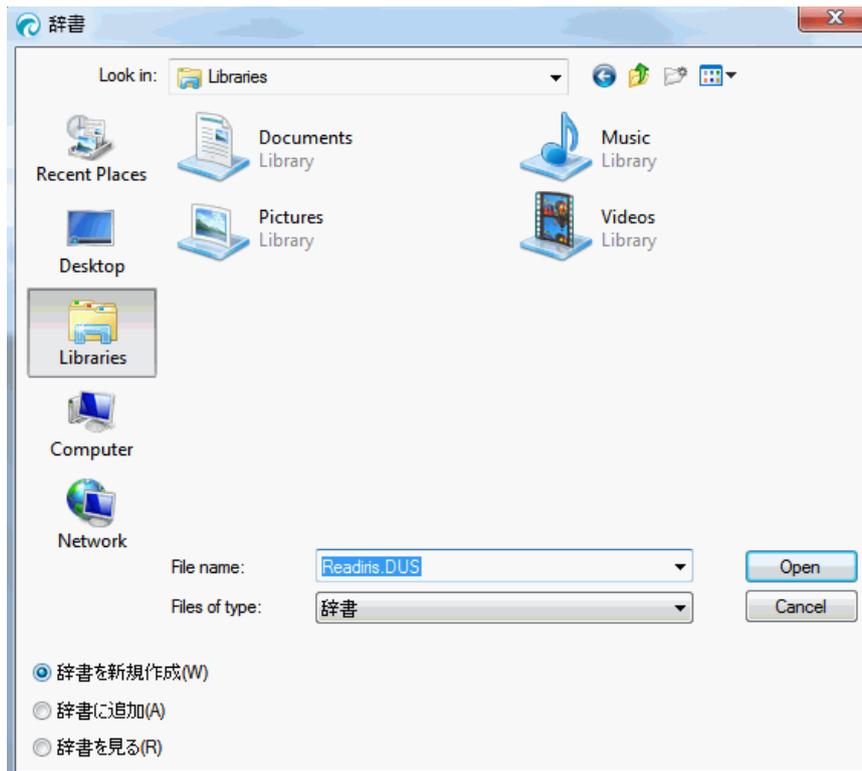
フォント辞書

前述のように、トレーニングの結果を恒久的に保存するには、トレーニング・モードと一緒にフォント辞書を使用するようお勧めします。

トレーニング・モードを初めて使用しフォント辞書を作成したことがない場合には、[新規フォント辞書] を選択します。ウィンドウが開いたら、辞書の名前を入力し、[開く] をクリックします。

注意：辞書の .dus 拡張子を変更しないでください。

注意：フォント辞書は、最高 500 個の形状に限られていますのでご注意ください。特定のアプリケーション用に、別個の辞書を作成するようお勧めします。



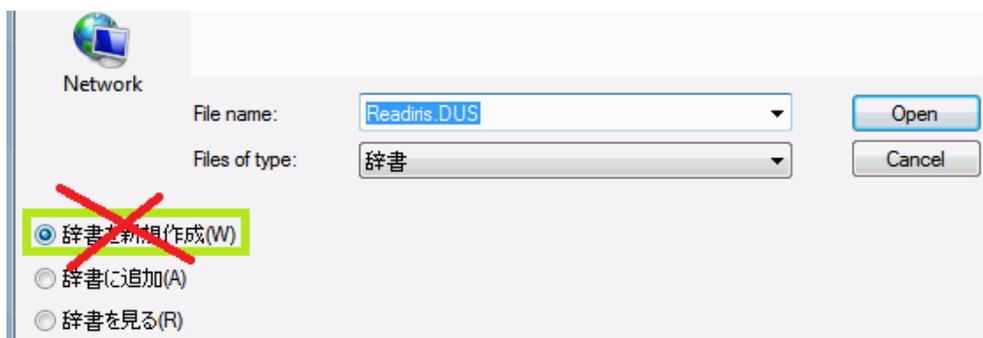
後で既存のフォント辞書を使用するには、[フォント辞書に追加] または [フォント辞書を開覧] を選択します。

[フォント辞書に追加] を選択する場合は、必ず [トレーニング・モード] をオンにします。このモードで、Readiris は、辞書に保存されている文字の形状を認識し、新規トレーニング結果に追加します。

[フォント辞書を開覧] を選択すると、[トレーニング・モード] が有効化されていても、Readiris は辞書に保存されている文字の形状を認識するだけで、新規トレーニング結果を追加しません。しかし [トレーニング・モード] を選択すると、必要に応じてフォント辞書に保存されていない認識結果を修正しますから便利です。

注意: 辞書モードが [新規辞書] に設定されているときは、既存の辞書を開かないでください。これを行なうと、既存の辞書のコンテンツを消去し、同名の新規辞書を作成してしまいます。

。



トレーニング・モードの使用

- [トレーニング]と[フォント辞書]オプションの設定が済んだら、文書を開くかスキャンします。
- 認識の最後に、Readiris はトレーニング・モードに入ります。認識システムがはっきりとは認識できない文字は、表示されます。



結果が正しい場合:

- [トレーニング]をクリックして、結果を確かなものとして保存します。フォント辞書を使用しない場合、トレーニングの結果は、認識の間、一時的にコンピュータメモリに保存されます。新規に文書のスキャンする際には、同じ手順を繰り返す必要があります。
[新規フォント辞書] オプションまたは [フォント辞書に追加] オプションを使用する場合、結果が辞書に保存されるため、同じ手順を繰り返す必要はありません。
- [終了]をクリックして、ソフトウェアが提供した解決法すべてを保存します。

結果が正しくない場合:

- 正しい文字を入力し、[トレーニング]をクリックします。

または、

- [トレーニングしない]をクリックして、結果を不確かとして保存します。トレーニングした場合、他の文字と混同される可能性がある損傷した文字にこのコマンドを使用します。例えば、数字の1と小文字のlは、多くのフォントで同一です。

- [削除]をクリックして、出力から文字を削除します。
文書ノイズが出力ファイルに表示されるのを防止するのにこのボタンを使用します。
- [元に戻す]をクリックして、間違いを訂正します。
Readiris は、前回 32 個の操作を記憶しています。
- [中止]をクリックしてインタラクティブ学習を中止します。
すべてのトレーニング結果が削除されます。次回文書を開いたりスキャンするときには、[トレーニング・モード]が再開されます。

セクション5：文書をスキャンし開く

文書のスキャン

操作を開始する前に：コンピュータにスキャナが接続され、正しく構成されていることを確認してください。必要に応じて、[\[スキャナの設定\]](#)の項を参照してください。

Readiris は、TWAIN 対応です。Readiris は、フラットベッドやシートフィードのスキャナほぼ全種、「一体型」デバイス、デジタルカメラ、現在利用可能なスキャナをサポートします。

スキャナ設定の選択

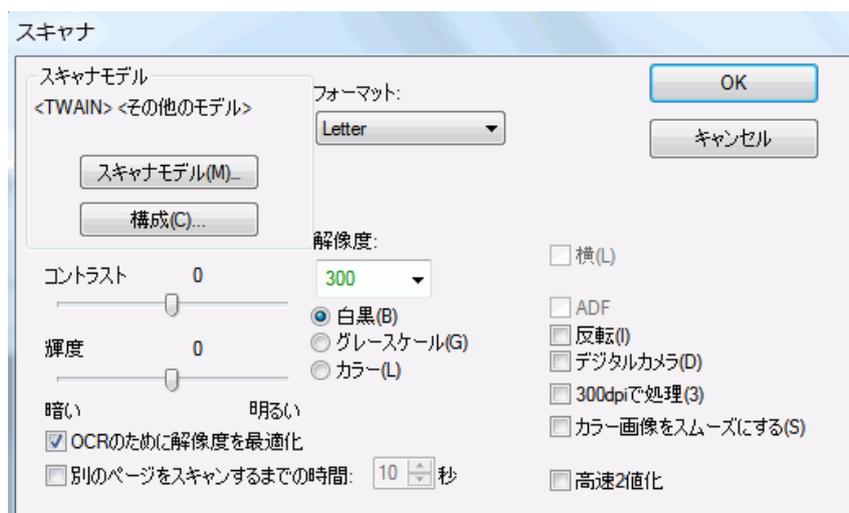
このセクションでは、Readiris で利用可能なスキャナ設定について概説します。

スキャナ設定にアクセスするには：

- [スキャン] ボタンの下にある矢印をクリックし、[設定] をクリックします。



- [スキャナ] ウィンドウが表示されます。



利用可能なスキャナ設定については、下の各項をご覧ください。

スキャナモデル

[**スキャナモデル**]をクリックし、リストからお使いのスキャナプロファイルを選択します。スキャナプロファイルを使用すると、お使いのスキャナ専用の機能にアクセスできます。例：両面スキャン (ADF)。お使いのスキャナで利用できない機能は、非表示になるか、薄い色で表示されます。

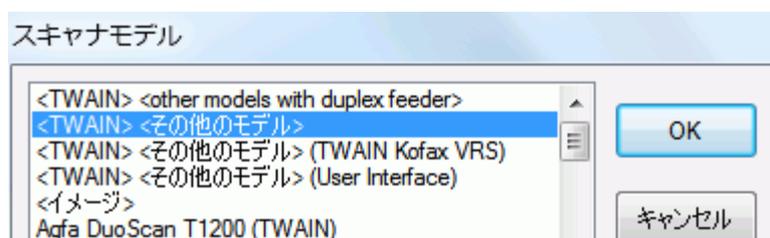
リスト中にお使いのスキャナが見つからない場合でも心配はいりません。スキャナの中には、専用のスキャナプロファイルを持たないものもあります。

リスト中にまったく同じスキャナが見つからない場合、似たようなプロファイルを選択しないでください。代わりに**汎用 Twain プロファイル**を選択してください。別の Twain プロファイルが利用できます。

通常のフラットベッドスキャナを使用している場合、**<Twain><OTHER MODELS>** を選択します。

Readiris ではなく、スキャナのユーザーインターフェースを使用して文書をスキャンしたい場合、**<Twain><OTHER MODELS>(ユーザーインターフェース)** を選択します。

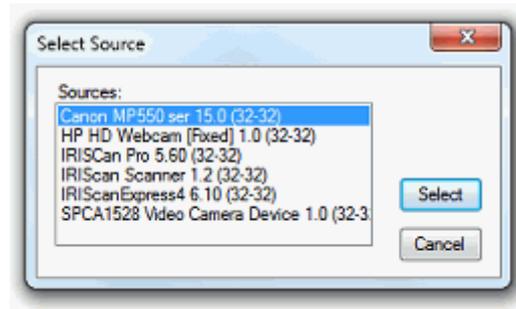
ページの表裏をスキャンする両面スキャナを使用したい場合、**<Twain><OTHER MODELS with duplex feeder>** を選択します。



設定

[**設定**]をクリックし、スキャナドライバを選択します。正しいスキャナドライバを選択しなければ、Readiris はスキャナと通信できません。

[**ソースの選択**] ウィンドウにお使いのスキャナが見つからない場合、スキャナドライバは正しくインストールされていません。スキャナドライバをもう一度インストールしてから、Readiris を設定しなおしてください。通常、スキャナドライバは、スキャナメーカーの Web サイトにあります。



注意：メインツールバーで直接スキャナドライバーを設定することもできます。[スキャン] ボタンの下にある下向き矢印をクリックし、[ソースの選択] をクリックします。

コントラスト

非常に画質の悪い画像をスキャンする際に最適な結果を得るには、[コントラスト] レベルを調整する必要があります。

[コントラスト] スライダを右に動かすと、背景とテキストの間のコントラストが強くなります。スライダを左に動かすと、コントラストが弱くなります。

注意：[自動露出] を選択すると、[コントラスト] スライダは使用できなくなります。この場合、コントラストは自動的に調整されます。

輝度

スキャンする画像が濃すぎる場合やぼやけている場合や薄すぎる場合には、[輝度] 設定を調整する必要があります。

[輝度] スライダを右に動かすと、スキャンの輝度が強くなります。スライダを左に動かすと、輝度が弱くなります。

注意：[自動露出] を選択すると、[輝度] スライダは使用できなくなります。この場合、輝度は自動的に調整されます。

OCRのために解像度を最適化

このオプションは、詳細すぎる(600 dpi 以上)スキャン画像の解像度を補正します。このオプションを起動させると、Readiris は、解像度を、適度なレベルまで下げます。

このオプションは、詳細が少なすぎるスキャン画像の解像度は向上させません。

この後に別のページをスキャン

このオプションは、複数のページをフラットベッドスキャナでスキャンする際に便利です。このオプションは、何秒後に Readiris に別のページをスキャンさせるかを指定します。これにより、スキャナでページを変更する時間を十分に保ちながら、Readiris に自動スキャンを

実行させることができます。このオプションのおかげで、新しいページをスキャンするたびに、いちいち Readiris アプリケーションに戻って [スキャン] ボタンを押す手間がなくなりました。

上向き矢印と下向き矢印で、Readiris が新しいページをスキャンするまでの待ち時間を設定します。

フォーマット

フォーマット] リストをクリックすると、スキャンする文書のサイズが定義できます。

ヒント：米国では、**レターサイズ**と**法定サイズ**が最も一般的なサイズです。世界的には **A4** が標準的なサイズです。

解像度

画像をスキャンする**解像度**を選択します。300 dpi (1 インチ当たりのドット数) の解像度をお勧めします。非常に小さい文字やアジア言語をスキャンする際には、400 dpi の解像度をお勧めします。

カラーモード

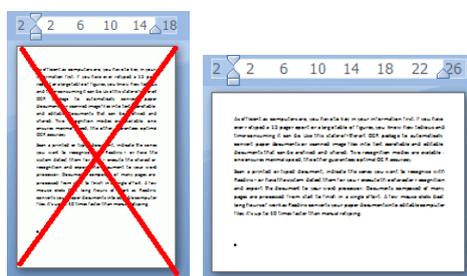
Readiris は、**カラー**、**白黒**、**グレースケール**の文書をスキャンすることができます。

グレースケールやカラーの画像の方が、OCR の結果が良好になります。

横向き

縦向きではなく横向きの文書をスキャンする際には、**[横向き]** オプションを選択します。

このオプションを選択すると、Readiris のインターフェースで、文書が横向きに表示されます。



自動露出

スキャナによっては、[自動露出]オプションが選択されている場合もあります。このオプションは、コントラストと輝度の設定を自動的に調節します。最適な認識結果を得るには、コントラストが良好である必要があります。

注意：このオプションを選択すると、**コントラスト**と**輝度**のスライダーは利用できなくなります。

ADF

ADF は Automatic Document Feeder (自動文書フィーダ) の略です。このオプションは、スキャナに自動文書フィーダが装着されている場合に利用できます。書類の山を一度にスキャンする場合、このオプションを選択してください。

反転

Twain スキャナは、白黒で文書をスキャンしたときに、黒色の背景に白いテキストを表示することがあります。テキストと背景の色を反転させるには、[反転]オプションを選択してください。

デジタルカメラ

Twain 対応デジタルカメラを使用する場合、スキャンソースとして、カメラを直接使用することができます。これを行うには、[デジタルカメラ]オプションを選択します。Readiris は、特殊な認識ルーティンを活用して、デジタルカメラの画像を処理します。

スキャンソースとして、デジタルカメラを使用する際のヒントについては、「[デジタルカメラの画像の処理方法](#)」を参照してください。

300dpiで処理

正しくなかったり、不明の解像度の画像を処理する場合は、[300dpi で処理] オプションを選択します。画像は、300 dpi の画像であるかのように処理されます。

カラー画像をスムーズにする

出荷時の設定では、このオプションが選択されています。これによって、文書のカラー画像やグレースケール画像の画質が向上します。

注意：スキャナによっては、カラーやグレースケールの画像をうまく認識するには、画像をスムーズにすることが必要です。

両面

文書の表裏をスキャンする両面スキャナを使用する場合、**[両面スキャン]** オプションが使用できます。Readiris に文書の表裏をスキャンさせる場合、このオプションを選択します。

高速2値化(Readiris Corporateのみ)

高速スキャナを使用する場合、**[高速 2 値化]** を起動するようお勧めします。このオプションは、処理時間を大幅に短縮します。

ヒント：非常に品質の悪い画像をスキャンする場合は、このオプションを選択しないでください。

文書のバッチのスキャン

(この項目は Readiris Corporate のみに適用されます)

文書のバッチ全体をスキャンする必要がある場合、Readiris の **[監視フォルダ]** 機能を使用することができます。

すると、Readiris で監視されている特定のフォルダのすべての文書をスキャンすることができます。Readiris によって監視フォルダの中に新しいフォルダが発見されると、それが処理されて、出力フォルダ、クラウド、FTP サイトなど、好みの送信先にエクスポートされます。

Readiris は、最大で 32 個の監視フォルダをサポートします。各監視フォルダには固有のコンフィギュレーションを設定することができます。たとえば、1 つの監視フォルダコンフィギュレーションで圧縮 PDF 文書を作成し、Therefore にエクスポートすることができ、別のコンフィギュレーションで RTF 文書を作成し、Google Drive にエクスポートすることができます。そこで文書を編集をすることができます。さらに、別のコンフィギュレーションで、別の認証情報(ユーザー名とパスワード)や設定(出力フォルダなど)を使用して、Google Drive の別のインスタンスに文書をエクスポートすることができます。

重要：

- Readiris 監視フォルダを使用している間は、同時に、Readiris を、スキャンアプリケーションとして使用することはできません。
- Readiris で既に文書を開いていた場合、**[監視フォルダ]** オプションは利用できません。**[監視フォルダ]** オプションにアクセスするには、文書を処理または削除します。
- 監視フォルダは**初期設定**(Readiris で構成した設定)または**特定の設定**を使用することができます。後者の場合、監視フォルダで構成する設定と Readiris で構成する設定との間には、まったく関係はありません。

監視フォルダのコンフィギュレーションを設定するには：

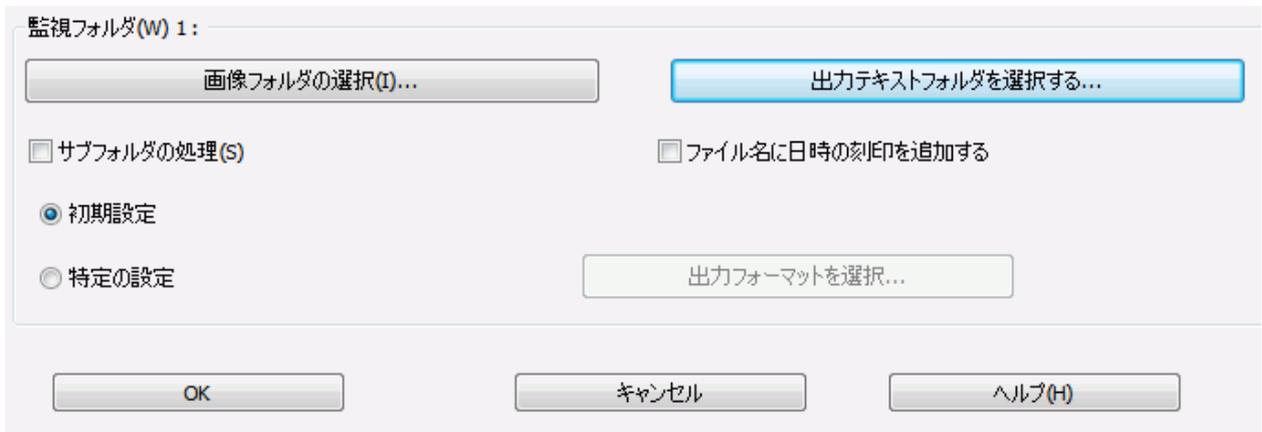
- [ファイルの読み込み元] ボタンの下にある下向き矢印をクリックします。



- [監視フォルダ] をクリックします。
[監視フォルダ] オプションは、Readiris に文書が開いていないときにしか利用できません。
- [新しい監視コンフィギュレーション] をクリックします。
- 文書のスキャン対象となる [入力フォルダ] を検索します。[OK] をクリックし、確定します。
- 監視フォルダに現在の Readiris のコンフィギュレーションを適用したい場合、選択した [初期設定] オプションを維持します。
オプション [出力テキストフォルダを選択する] は、現在の Readiris コンフィギュレーションで出力が [ファイルとして保存] に設定されているときにのみ利用できることに注意してください。



オプション [出力フォーマットを選択] は、[特定の設定] を使用しているときにのみ利用できます。



- [監視フォルダ] コンフィギュレーションに特定の設定を適用したい場合、[特定の設定] オプションを選択します。
- すると [出力設定] 画面が表示されます。
出力フォーマットと送信先とレイアウトのオプションを選択します。詳細に関しては、「[セクション 8：文書の保存](#)」と「[セクション 9：文書をクラウドに送信する](#)」をご参照ください。
- [OK] をクリックし、確定します。

ヒント：

- Readiris に監視フォルダのサブフォルダを処理させたい場合には、[サブフォルダの処理] を選択します。

注意：[サブフォルダの処理] 機能がアクティベートされている場合、新しい監視フォルダコンフィギュレーションで、監視フォルダとして既存の監視フォルダのサブフォルダを使用することはできません。

例：コンフィギュレーション 1 で [サブフォルダの処理] を選択し、監視フォルダとして C:\Input を使用します。C:\Input に「Batch1」という名のサブフォルダがあります。その場合、C:\Input\Batch1 を、コンフィギュレーション 2 の監視フォルダとして使用することはできません。

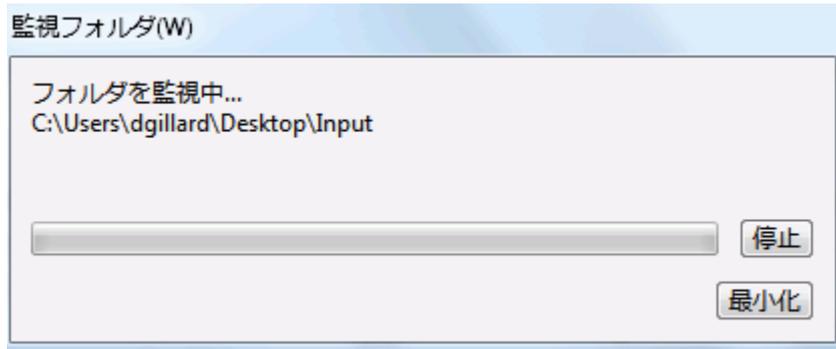
- 複数の監視フォルダを使用する場合、[ファイル名に日時の刻印を追加する] の機能を使用すると便利です。

すると、同じファイル名を有する出力ファイルを作成してしまうことが防止できます (同じファイル名を有する出力ファイルがあった場合、同じ出力送信先を使用したときに、それが上書きされてしまいます)。日時の刻印は <filename>_YYYYMMDDHHMMSS のような形式を有しており、作成時刻の年、月、日、時間、分、秒が記録されます。

- 終了したら、[OK] をクリックして 監視フォルダの監視を開始します。もしくは、[新しい監視コンフィギュレーション] をクリックして、別の監視フォルダを構成します。

監視中に、Readiris は、そのフォルダ内で見つけた画像を処理します。

ヒント：[最小化] をクリックすると、Readiris はバックグラウンドで実行されます。



Readiris で監視されている間に、監視フォルダに文書を追加するには、

- スキャナのインターフェースを使って文書をスキャンします。または、
- 既存の画像ファイルを監視フォルダに移動させます。

画像ファイルを開く

Readiris では、文書をスキャンする以外に、画像ファイルや PDF ファイルを開くこともできます。

Readiris は、次の各画像フォーマットをサポートします。

画像ファイルフォーマット	ファイル拡張子
Adobe PDF	*.pdf
DCX ファックス	*.dcx
DjVu 画像	*.djv、*.djvu
JPEG 画像	*.jpg、*.jpeg
JPEG 2000 画像	*.j2c、*.j2k、*.jp2
Portable Network Graphics	*.png
(圧縮した複数ページ)TIFF 画像 非圧縮、LZW、PackBits、Group 3、Group 4 および JPEG 圧縮	*.tif、*.tiff
Windows ビットマップ	*.bmp
ZSoft ペイントブラシ画像	*.pcx

既存の画像ファイルの開け方:

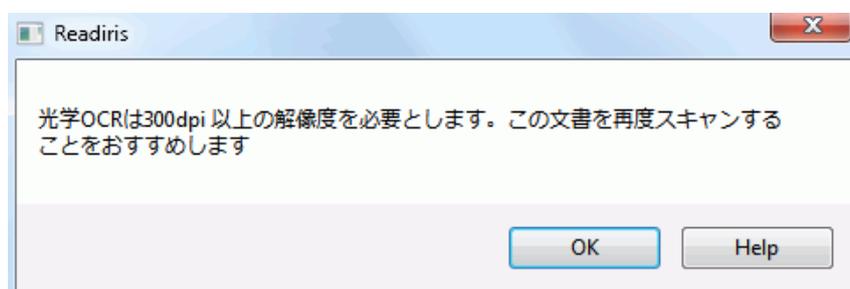
- [ファイルの読み込み元]ボタンをクリックします。



- 次に、処理したい画像ファイルを選択し、[開く]をクリックします。

注意:

画像が低解像度でスキャンされた場合や、解像度が不明な場合、Readiris には次の警告が表示されます。



ともかく[開く]をクリックして、画像の作業を続けます。ヒント: [ヘルプ](#) ボタンをクリックして、低解像度の画像で最良の結果を得る方法のポインタを表示させてください。

画像ファイルを開く際のオプション

画像ファイルを開く際に、次のオプションが利用できます:

PDF文書をカラーで読み込む

このオプションの動作は読んで字の如しです。すなわち、PDF 文書をカラーで開きます。PDF 文書を白黒で開く場合にはこのオプションを無効にしてください。すると、文書が早く開きます。

カラー画像をスムーズにする

出荷時の設定では、このオプションが選択されています。これによって、文書のカラー画像やグレースケール画像の画質が向上します。

注意：スキャナによっては、カラーやグレースケールの画像をうまく認識するには、画像をスムーズにすることが必要です。

300dpiで処理

正しくなかったり、不明の解像度の画像を処理する場合は、[300dpi で処理]オプションを選択します。画像は、300 dpi の画像であるかのように処理されます。

高速2値化 (Readiris Corporate)

同時に多数の画像を読み込む場合は、[高速 2 値化]を選択します。このオプションは、処理時間を大幅に短縮します。

ヒント：非常に品質の悪い画像をスキャンする場合は、このオプションを選択しないでください。

ページ範囲

複数ページの TIFF や PDF ファイルの一部のみを開きたい場合には、このオプションを使用してください。

文書全体 (Readiris Pro で 50 ページまで) を開く場合には [すべてのページ] を選択します。もしくは、[ページ] を選択して、ページの範囲を指定します。

画像ファイルを開くための別の方法

[ファイルの読み込み元]ボタン以外に、Readiris インターフェースに画像ファイルをドラッグして開く方法もあります。

画像ファイルのバッチを処理する

(この項目は Readiris Corporate のみに適用されます)

画像ファイルのバッチ全体を処理するには、Readiris の「バッチ OCR」フォルダを使用することができます。

- [ファイルの読み込み元] ボタンの下にある下向き矢印をクリックします。



- 次に [バッチ OCR] をクリックします。
バッチ OCR オプションは、Readiris に文書が開いていないときにしか利用できません。
- 画像ファイルが格納されている入力フォルダを検索します。
- 次に、処理された文書を保存する出力フォルダを検索します。



- 次に処理オプションを選択します。
 - [サブフォルダの処理] では、入力フォルダのサブフォルダがすべて処理されます。
 - [出力テキストファイルの上書き] では、出力フォルダの中にある、同じ名前の既存出力ファイルが上書きされます。

- [認識後にスキャンを削除] では、処理後に、原本の入力画像が削除されます。
○ [ファイル名に日時の刻印を追加する] では、ドキュメントのファイル名に日時が追加されます。
すると、同じファイル名を有する出力ファイルを作成してしまうことが防止できます (同じファイル名を有する出力ファイルがあった場合、同じ出力送信先を使用したときに、それが上書きされてしまいます)。日時の刻印は <filename>_YYYYMMDDHHMMSS のような形式を有しており、作成時刻の年、月、日、時間、分、秒が記録されます。
- [出力フォーマットの選択] ボタンをクリックすると、必要な出力フォーマットとフォーマットオプションが選択できます。
ヒント：詳細については、「[文書の保存](#)」と「[フォーマットオプションの選択](#)」の各項をご覧ください。
- オプションの選択が済んだら、[OK] をクリックすると、文書の処理が開始されます。

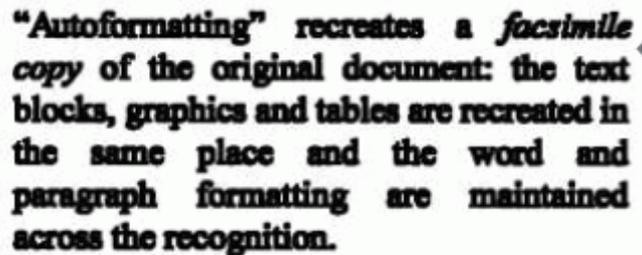
セクション 6：画質を調整する

文書の画質によって、認識の結果が大きく左右されます。質の悪い文書をスキャンすると、Readiris は正しく認識することができません。

その理由は、Readiris では、テキストの文字の写真が、実際のテキストの文字に変換されるからです。文書の文字が濃すぎると、文字が隣の文字と一体化して黒い点になってしまいます。文書の文字が薄すぎると、文字がくずれてしまっています。その結果、Readiris は文字を認識することができなくなります。

例 1：テキストが濃すぎる

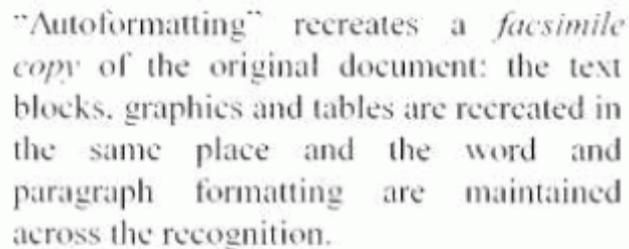
この例では、文字中の白い部分が黒くなって、文字が不明瞭になります。a、e、o などの各文字は、完全にぼやけてしまいます。



“Autoformatting” recreates a *facsimile* copy of the original document: the text blocks, graphics and tables are recreated in the same place and the word and paragraph formatting are maintained across the recognition.

例 2：テキストが薄すぎる

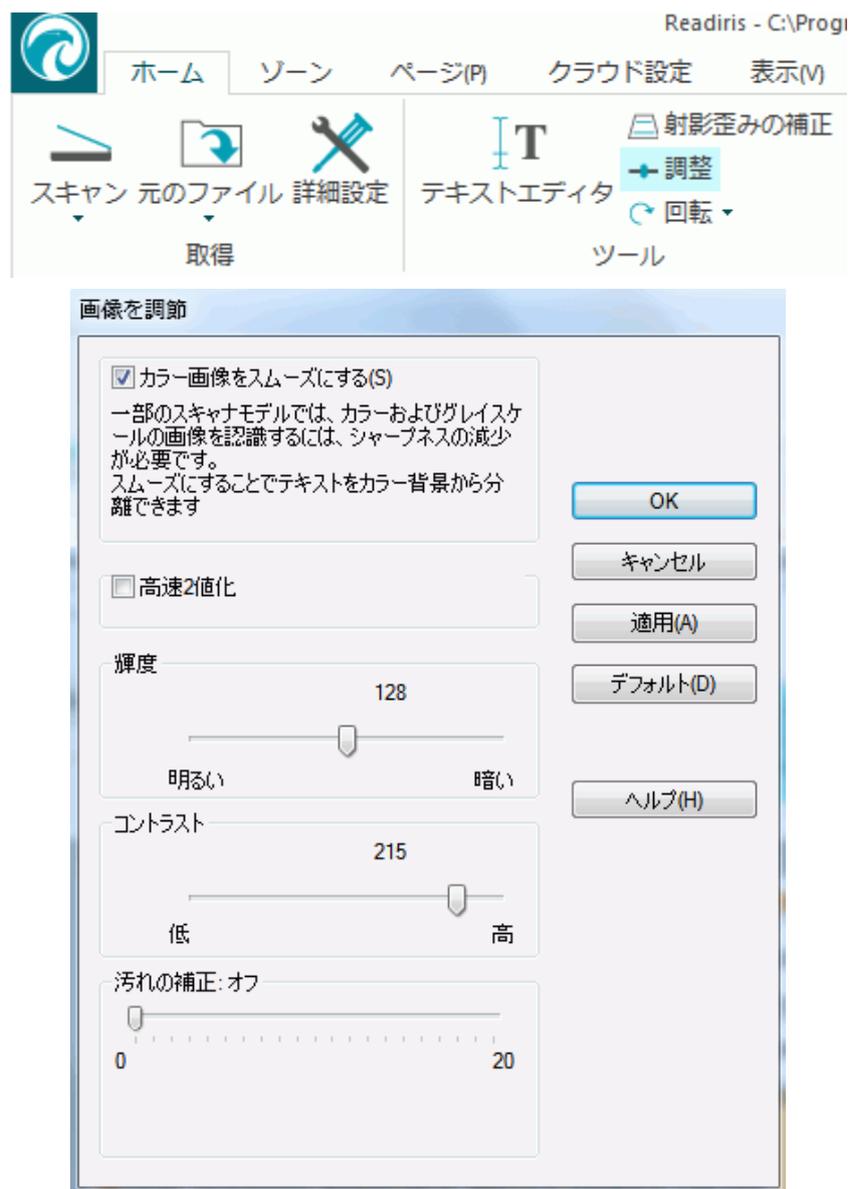
この例では、テキストの文字間の隙間が広がって、形状が不完全になります。



“Autoformatting” recreates a *facsimile* copy of the original document: the text blocks, graphics and tables are recreated in the same place and the word and paragraph formatting are maintained across the recognition.

認識結果の改善方法：

- 文書が 300 dpi 以上の解像度でスキャンされたことを確認してください。その設定になっていない場合には、適切な解像度で文書をもう一度スキャンします。必要に応じて、[\[スキャナ設定の選択\]](#) の項を参照してください。
- [ホーム] タブで [調整] をクリックします。
([ページ] タブでも同じコマンドが利用できます。)



カラー画像をスムーズにする

出荷時の設定では、このオプションが選択されています。これは、強度の差をスムーズにして、テキストと背景の間のコントラストを大きくします。カラー背景からテキストを分離するには、スムージングしか方法がない場合も時々あります。

高速 2 値化 (Readiris Corporate)

[[ファイルの読み込み元](#)] オプションまたは [[スキャナ設定](#)] で [高速 2 値化] を選択した場合、[[画像を調整](#)] メニューで同じオプションが選択されます。このオプションは処理時間を大幅に短縮するので、同時に多数の画像ファイルをスキャンしたり読み込む場合に便利です。

ただし、このオプションを選択した場合、[[輝度](#)] と [[コントラスト](#)] の各オプションを手動で調整することはできなくなります。このオプションを解除すると、これらを手動で調整することができます。

輝度

スライダーを動かすと、文書の輝度が増減できます。

例1：画像が濃すぎる

下の画像は文字が濃すぎるので、単に真っ黒な画像になっています。認識できるようなテキストはありません。



この場合、テキストを表示させるには、画像を薄くする必要があります。

**Verenigde Staten,
een antwoord te vi**

例2：画像が薄すぎる

下の画像は文字が薄すぎるので、テキストの文字がくずれてしまっています。テキストはほとんど読めません。

wyjscia kazdego wyjscia kazdego
brawia, ze nasze brawia, ze nasze

この場合、満足のいく結果を得るために、画像を濃くする必要があります。

**wyjscia kazdego
brawia, ze nasze**

コントラスト

スライダーを動かすと、テキストと背景の間のコントラストが増減できます。

例

下の画像ではテキストの文字がくずれてしまっています。

A Look at International A Look at International
Planning the Future Planning the Future

この場合、満足のいく結果を得るために、コントラストを大きくする必要があります。

**A Look at International
Planning the Future**

汚れの補正

文書にたくさんの「ノイズ」(低画質の文書をスキャンした場合やスキャナの設定が不適切な場合に発生する、小さな黒いしみ)がある場合があります。

この小さな黒いしみを除去するには、[汚れの補正] スライダーを使用します。スライダーを右に動かすほど、大きなしみが除去されるようになります。

画質調整が終わったら：

- **適用**をクリックして、結果をプレビューします。
- 結果に満足できる場合は、[OK]をクリックします。満足できない場合は、設定を再度変更します。

セクション7：認識した文書の編集

Readiris 15 では、認識されたドキュメントをいくつかの方法で編集することができます。以前のバージョンの Readiris と同様にスキャンされたページの回転や傾き補正を行ったり、認識ゾーンを編集するだけでなく、テキストエディタで認識したテキストを編集することもできます。

詳細に関しては、以下の各セクションをご参照ください。

[ページオプションの変更](#)

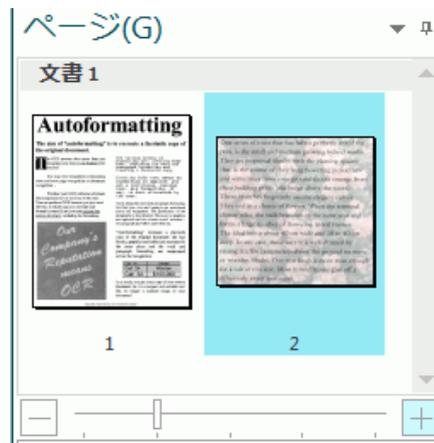
[認識ゾーンの編集](#)

[ゾーニングテンプレートを使用](#)

[テキストエディタを使用する](#)

ページオプションの変更

- [ページ] パネルで、変更したいページを選択します。



- 次にメインツールバーの[ページ]タブをクリックします。



整理

[整理] グループの矢印を使うと、他のページに切り替わります。

ツール

- Readiris でスキャンして現在開いている白紙ページを削除するには、[白紙ページの削除] をクリックします。
注意：文書に白紙ページがない場合にはこのオプションは利用できません。
スライダーを移動して、どのページを白紙ページであると判断するかを決定します。スライダーを「高い」方に移動させるほど、ページが白紙であると判断される速度が速くなります。
- 全部のページを出力ファイルに含めるには、[すべてのページを含める] をクリックします。
- 全部のページを出力ファイルから除外するには、[すべてのページを除外] をクリックします。

画像ツール

傾き補正

ページが斜めにスキャンされた場合、[傾き補正] をクリックします。



射影歪みの補正

画像に射影歪みの補正を適用するには、[射影歪みの補正] をクリックします。

注意：良好な認識結果を得るには、適切な射影歪みの補正をすることが非常に重要です。Readiris は自動的にページ枠やテキストの整列状態を検索して、どの射影歪みの補正を適用すべきかを決定します。



回転

下向き矢印をクリックし、ページの回転方向(左右、上下)を選択します。

調整

[調整] オプションを使用すると、画質を調整することができます。詳しくは、[セクション6：画質を調整する](#)を参照してください。

印刷

このコマンドで、選択したページを印刷することができます。

画像として保存

[ページ] タブでは、ページを画像として保存することもできます。これは、[文書を画像ファイルとして保存](#)のセクションで説明されています。

ヒント：

認識ゾーンを変更したい場合には、[ゾーン] タブをクリックします。その詳細については、[認識ゾーンの編集](#)のトピックを参照してください。

認識ゾーンの編集

はじめに

Readiris で文書をスキャンしたり、画像ファイルを開く際には、各ページが自動的に認識ゾーンに分割されます。Readiris はこれらのゾーンを使用して、文書の各部分をどんな方法で変換するかを決定します。文書にゾーンがない場合、認識できません。

Readiris Pro には、テキストゾーン、画像ゾーン、テーブルゾーンの3種類の認識ゾーンがあります。Readiris Corporate には、バーコードゾーンという第4のゾーンがあります。

各ゾーンは色分けされています。

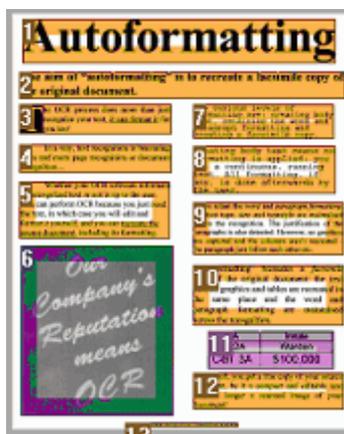
テキストゾーン	オレンジ
画像ゾーン	紫
テーブルゾーン	ピンク
*バーコードゾーン	緑

*Readiris™ Corporate のみ。

各ゾーンの左上には番号が付いているのがおわかりになるでしょう。番号は、左上から右下の順に大きくなっていきます*。これは、ゾーンが認識される順番を示しています。

***注意：**主要言語としてアラビア語を選択した場合、アラビア語を処理すると、番号は、右から左の順に大きくなります。

認識ゾーンの例



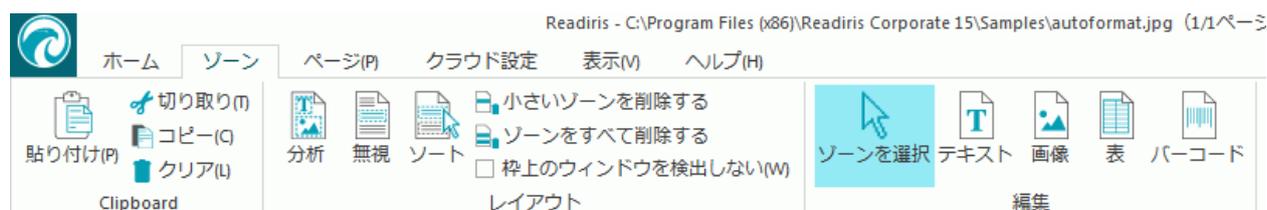
自動ページ分析の変更

上で説明したゾーンは自動的に作成されます。ただし、この自動ページ分析は固定されているわけではありません。いくつかの方法で変更することができます。たとえば、手動で新しいゾーンを作成したり、既存のゾーンを変更したり、ゾーンのサイズを拡大縮小したり、ソート順を変更することなどができます。

注意：テキストを編集したい場合には[テキストエディタ](#)を使用します。

編集およびレイアウトのオプションにアクセスするには:

- Readiris で文書をスキャンするか、文書を開きます。
- [ゾーン] タブをクリックします。



編集およびレイアウトのオプション

下のリンクから、Readiris の編集やレイアウトのオプションの概要を見ることができます。

注意：レイアウトを変更すると、Readiris はページ全体の認識を再実行します。

手動でゾーンを描

Readiris が認識ゾーンを見逃してしまった場合に備えて、手動で認識ゾーンを描くことができます。

バーコードゾーンは必ず手動で描かなければならないことに注意してください。

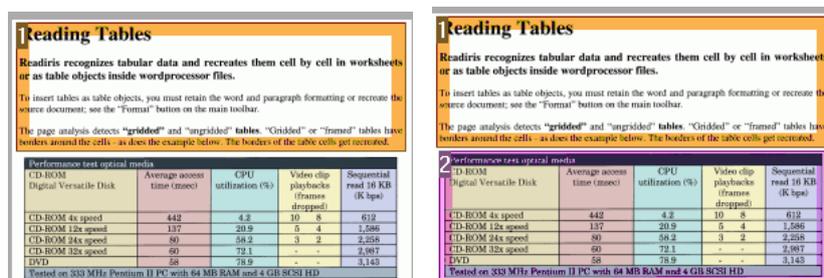
ゾーンを描くには：

- [編集] グループで、作成したい [ゾーンタイプ] をクリックします。



- 次に、左ボタンを押さえたまま、認識したい部分の周囲にフレームを描きます。

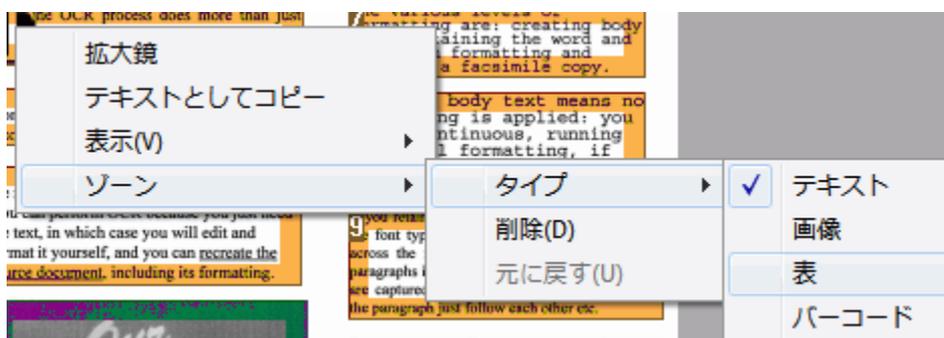
下の画像では、新しい表ゾーン (ピンクのフレーム) を描いています。



ゾーンタイプの変更

画質の悪い文書をスキャンする場合、Readiris はゾーンタイプを正しく決定できないことがあります。その場合、次のようにゾーンを変更することができます。

- 変更したいゾーンを右クリックします。
- [ゾーン] > [タイプ] をポイントし、希望のゾーンタイプをクリックします。



重要：画質の悪い画像をスキャンする場合、Readiris は正しく認識できない可能性があります。そのような問題を防止するには、「[画質を調整する](#)」の項を参照してください。

複数のゾーンの対応を同時変更する

画質の悪い文書をスキャンする場合、Readiris はゾーンタイプを正しく決定できないことがあります。その場合、次のようにゾーンを変更することができます。

- [編集] グループで [ゾーンの選択] をクリックします。



- [Shift] キーを押したまま、変更したいゾーンをクリックします。
- まだ [Shift] キーを押さえたまま選択したゾーンを右クリックし、[ゾーン]>[タイプ] をポイントし、希望のゾーンタイプをクリックします。

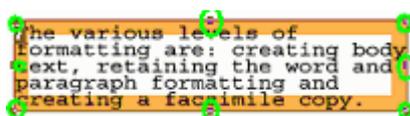
重要：画質の悪い画像をスキャンする場合、Readiris は正しく認識できない可能性があります。そのような問題を防止するには、「[画質を調整する](#)」の項を参照してください。

ゾーンの拡大または縮小

- [編集] グループで [ゾーンの選択] をクリックします。



- 次に、縮小または拡大したいゾーンの内側をクリックします。
- フレーム上の小丸のいずれかを押さえたまま、希望の方向にフレームをドラッグすると、ゾーンが縮小または拡大できます。



ゾーンのノート順の変更

ゾーンについている番号は、出力ドキュメントに含まれる順番を示しています。順番を変更するには：

- [編集] グループで [ゾーンの選択] をクリックします。
 - 次に「ソート」ボタンをクリックします。
- するとゾーンから番号が消えます。



- 並べ替えたい順に、認識ゾーンを一つずつクリックしてください。

ゾーンの移動

- [編集] グループで [ゾーンの選択] をクリックします。



- 移動させたいゾーンの内側をクリックし、マウスボタンを押さえたまま、希望の位置にフレームをドラッグします。

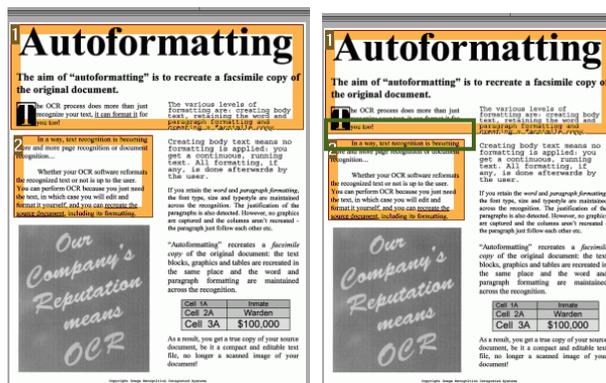
ゾーンの接続

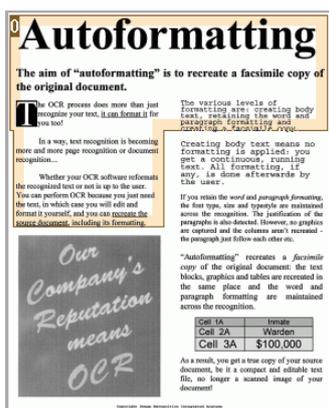
同じグループに属する2個のゾーンを、1個のテキストゾーンにまとめたいことがあります。その場合：

- [編集] グループで [テキスト] を選択します。



- 2個のゾーンの間にはテキストゾーンを描き、接続します。





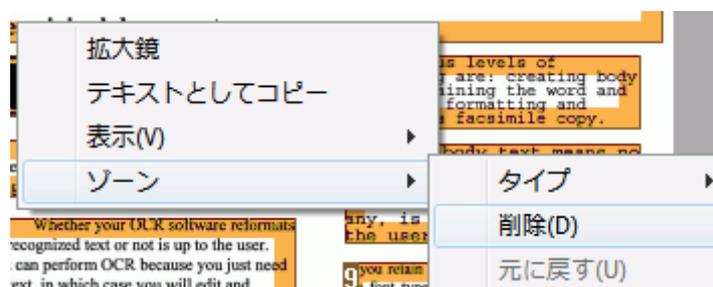
- 2 個のゾーンが 1 つに結合されます。

同じタイプのゾーンしか結合できないことに注意してください。

ゾーンの削除

ゾーンを、認識の対象から外したい場合

- **[編集]** グループで **[ゾーンの選択]** をクリックします。
- Shift キーを押したまま、削除したいゾーンを選択します。
- 選択したゾーンのいずれかを右クリックし、**[ゾーン]** をポイントし、**[削除]** をクリックします。



小さいゾーンの削除

文書にたくさんの「ノイズ」(低画質の文書をスキャンした場合やスキャナの設定が不適切な場合に発生する、小さな黒いしみ)がある場合があります。この場合、有益な情報が入っていないにも関わらず、Readiris はノイズを認識ゾーンとしてマーキングする傾向にあります。

このゾーンを認識から除外するには：

- オプション **[小さいゾーンを削除]** をクリックします。
- このオプションは、1.27cm 未満のウィンドウすべてを消去し、残りのゾーンを再スタートします。



枠上のゾーンを無視する

スキャナが文書の周囲に黒枠を作成した場合、有益な情報が入っていないにも関わらず、Readiris はノイズを認識ゾーンとしてマーキングする傾向にあります。

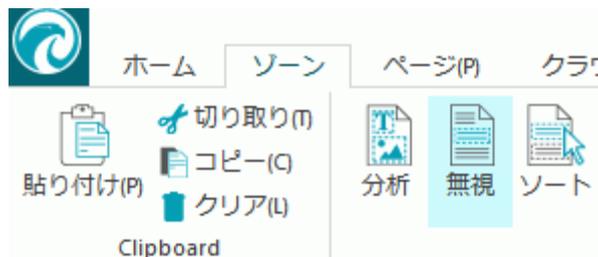
この場合、オプション [枠上のゾーンを検出しない] を使用するようにお勧めします。すると、認識の際に枠ゾーンが除外されます。



特定のゾーンを無視する

文書のページの一部分にしかコンテンツがない場合、[無視] オプションを使用して、ページのその他の部分を認識から除外することができます。

- [レイアウト] グループで[無視] をクリックします。
- 情報が含まれている部分の周囲にフレームを描きます。すると、フレームの外はすべて無視されます。

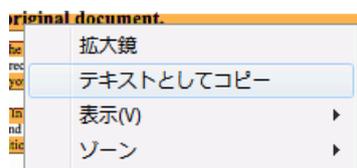


注意：文書全体が同じレイアウトになっている場合、このオプションを使用してゾーニングテンプレートを作成することもできます。詳しくは「[ゾーニングテンプレートを使用する](#)」を参照してください。

特定のゾーンの内容を認識する

特定のテキストゾーンの内容のみを認識したいが完全に変換された出力文書を必要としない場合、[テキストとしてコピー] オプションを使用することができます。

- 認識したいテキストゾーンを右クリックします。
- 次に、[テキストとしてコピー] をクリックします。



結果は、本文としてクリップボードにコピーされます。すると、他のアプリケーションに貼り付けることができます。

ゾーニングテンプレートを使用

外観が類似している文書を多数処理したい場合、毎回認識ゾーンを編集する代わりに、ゾーニングテンプレートを適用すると便利です。ゾーニングテンプレートには、文書の外観、および、テキスト、写真、テーブルの各ゾーン的位置を指示することができます。こうすることによって、Readiris は、指定されたエリアのみを検索するので、処理時間が大幅に節約されます。

ゾーニングテンプレートを作成するには：

- 最初の文書をスキャンします。
- [ゾーン] タブをクリックして、希望通りにゾーンを編集します。
その詳細については、[認識ゾーンの編集](#) を参照してください。
- [保存] をクリックして、ゾーニングテンプレートを保存します。



ゾーニングテンプレートを使用するには：

- Readiris で文書をスキャンするか、文書を開きます。
- [ゾーン] タブで[開く] をクリックします。
- ご希望のレイアウトオプションを選択します。
- Readiris で開いたすべてのページにこのレイアウトを適用したい場合には、[すべてのページにこのレイアウトを適用] を選択します。

- 次に [開く] をクリックします。

テキストエディタを使用する

テキストエディタを使用すると、認識結果を編集することができます。

テキストエディタにアクセスするには：

- メインツールバーの[テキストエディタ]をクリックします。

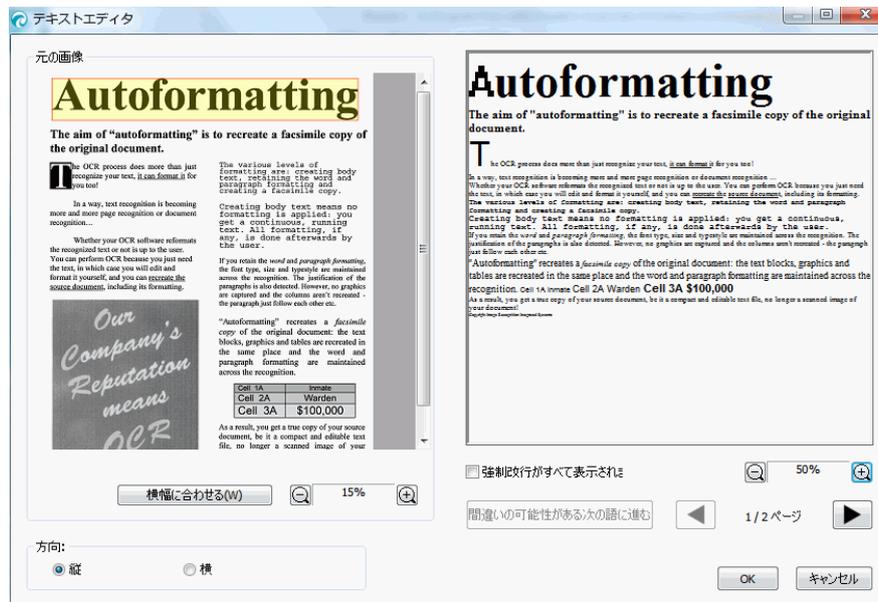
注意：[テキストエディタ] コマンドは、Readiris で1 つ以上の文書が開いているときにのみ利用できます。



テキストエディタのしくみ

テキストエディタには、現在選択されているページの認識結果が表示されます。左の列に元の画像が表示され、右の列に認識テキストが表示されます。デフォルトでは、テキストエディタは、**縦向き**、すなわち、列を左右に並べた状態で表示されます。

横向き表示に切り替えるには、[横向き] を選択します。すると、列を上下に並べた状態で表示されます。



縦向き表示

認識間違いの可能性のある語は、赤枠で囲まれた黄色でマーキングされます。

語を修正するには：

- 認識したテキストの列の内側をクリックします。
- 修正をタイプします。
- 不要な結果を削除するには、キーボードの [削除] ボタンを押します。
重要：キーボードの [バックスペース] ボタンは動作しません。
- また、カーソルで語や段落全体を選択して、「削除」を押すと、それらを削除することができます。
- 編集操作を元に戻すには、キーボードで Ctrl+Z を押します。
- 操作をやり直すには、キーボードで Ctrl+Z を押します。



注意：認識結果には画像は表示されませんが、もちろん、出力ファイルには含まれます。

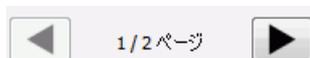
注意：表を含む文書を開くと、認識結果で表はプレーンテキストとして表示されるが出力ファイルにも含まれることを通知する警告文が、表示されます。表の内容は完全に編集可能です。

注意：テキストエディタでは、アラビア語やヘブライ語など、右から左に書く言語はサポートされません。

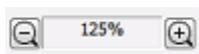
- 認識間違いの可能性がある次の語に切り替えるには、対応するボタンをクリックするか、キーボードの F3 を押します。

間違いの可能性のある次の語に進む

- 別のページに移動するには、左向きまたは右向きの矢印をクリックします。



- 元の画像や認識結果を拡大・縮小するには、対応するズームコマンドを使用します。



- 結果の編集が済んだら、[OK]をクリックして確認します。
- 編集内容をすべてキャンセルするには、[キャンセル] ボタンをクリックし、[はい]を選択して中止します。

セクション 8：文書の保存

Readiris で処理した文書は、プレーン テキスト ファイルから、完全レイアウト済み Word および Excel ファイル、さらに、PDF や XPS ファイルに至るまで、多数の出力フォーマットで保存できます。

Readiris を使用すると、画像 PDF (テキストを選択したりコピーできない) を、完全テキスト検索可能な PDF 文書に変換することもできます。画像 XPS 文書にも同じことが適用されます。

出力フォーマットを選択するには：

- メインツールバーの[出力]グループで一般的な出力フォーマットのいずれかをクリックします。

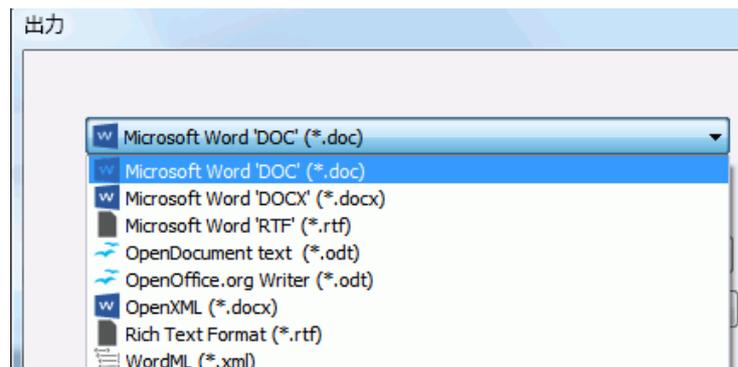
最近選択された 3 つの出力フォーマットが表示されます。初めて Readiris を使用する際のデフォルト出力フォーマットは、.docx、.pdf、.txt の 3 つです。

利用可能な出力フォーマットに関する詳細は、[\[利用可能な出力フォーマット\]](#)をご参照ください。

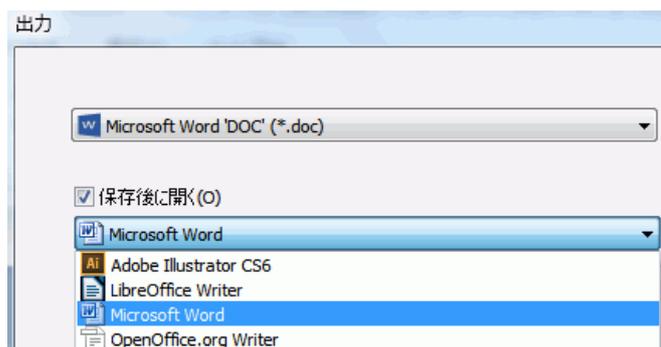
- フォーマットの設定を構成するには、その下にある下向き矢印をクリックします。



- 最初のドロップダウンリストでファイル拡張子を選択します。



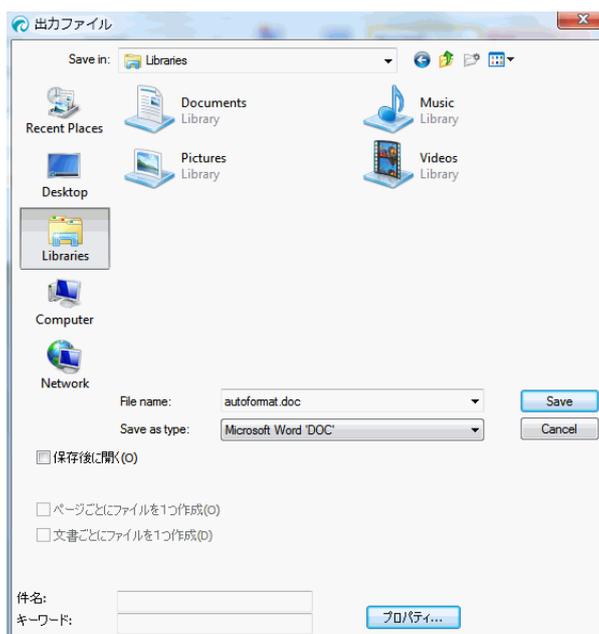
- 処理後直ちに出力ファイルを開きたい場合、[保存後に開く]を選択します。
 - 2 番目のドロップダウンリストには、コンピュータにインストールされていて選択されたファイルフォーマットを開くことができるアプリケーションが表示されます。
 - リストからお好みのアプリケーションを選択します。



- 3番目のドロップダウンリストで送信先を選択することができます。デフォルトでは、出力ファイルは、コンピュータにファイルとして保存されます。クラウド送信先も選択することができます。詳細に関しては、「[セクション9：文書をクラウドに送信する](#)」をご参照ください。
- 画面下のタブでフォーマットオプションを選択します。
注意：選択されたフォーマットで利用できる設定のみが利用できます。詳細に関しては、「[フォーマットオプションの選択](#)」をご参照ください。
- [OK]をクリックして、[出力] ウィンドウを閉じます。
- 次に、[開始] をクリックすると、文書が変換されて保存されます。



- Readiris が処理を完了すると、[出力ファイル] ウィンドウが開きます。出力ファイルに名前を付けます。



注意： 出荷時の設定では、Readiris は、1 つの出力ファイルに全部のページを保存します。スキャンされたページごとに別々のファイルを作成したい場合には、[ページごとに1つのファイルを作成] を選択します。

注意： 文書を保存しても、Readiris インターフェースから自動的に削除されません。このため、必要に応じて、設定を変更したり、別のフォーマットで文書を保存することもできます。

PDF文書に追加

既存の PDF 文書にページを追加することができます。

- 出力フォーマットとして PDF を選択します。
- [開始] をクリックします。
- 既存の PDF 文書を選択し、[保存] をクリックします。
- Readiris が、既存のファイルを追加するか、それとも上書きするか尋ねてきます。
- 文書にページを追加する場合には、[追加] を選択します。



Readirisで新しいプロジェクトを開始する

Readiris で新しいプロジェクトを開始するには：

- ページ] パネルの下にある [ゴミ箱] アイコンをクリックします。このコマンドを実行すると、Readiris から文書が削除されるので、新しいプロジェクトを開始することができます。



利用できる出力フォーマット

各対応出力フォーマットの概要を下で説明します。

- PDF

PDF は「Portable Document Format (ポータブル・ドキュメント・フォーマット)」の略です。これは、文書の交換を容易にする目的で、Adobe System Inc.によって開発されたフォーマットです。PDF ファイルは、デバイスや解像度と一切関係なく、どんなオペレーティングシステム (Windows、Mac OS、Linux、iOS、Android など) でも開くことができるフォーマットです。PDF は、主に、保管目的で使用されます。PDF ファイルのコンテンツは、(簡単には) 編集できません。

Readiris は、4 種類の PDF ファイルが作成できます。

- PDF 画像-テキスト (= PDF 検索可能画像) この種のファイルが最も一般的に使用されます。これには、認識可能なテキストと、テキストの上を覆う原本の画像の 2 つのレイヤーが含まれます。こうすることにより、認識可能なテキストにアクセスできると同時に、原本の画像を見ることができるようになっています。

注意：画像はテキストを覆うようになっているので、認識ミスがあるかどうかはわかりません。

- PDF 画像。この種のファイルを選択すると、Readiris は、文書内のテキスト認識を実行しません。この PDF ファイルではテキストを検索することはできません。このファイルには、原本にあった画像のみが含まれます。
- PDF テキスト-画像 (Readiris Corporate のみ)。このファイルタイプは、PDF 画像-テキストの逆です。これは、原本の画像が背景に埋め込まれ、認識されたテキストが画像の上を覆うようになっています。

注意：このフォーマットでは、認識ミスがはっきりとわかるようになっています。

- PDF テキスト (Readiris Corporate のみ)。この種のファイルには認識されたテキストは含まれますが、原本の文書にあった画像は含まれません。この PDF ファイルでは、原本の文書にあった画像はグラフィックとして埋め込まれます。

注意：PDF ファイルでは多数のオプションが利用できます。Readiris では、超圧縮された PDF ファイル、パスワード保護された PDF ファイル、PDF ファイル、PDF/A 準拠の PDF ファイルが作成できます。詳しくは「[PDF オプションの選択](#)」セクションを参照してください。

ヒント：Readiris を使用すると、画像 PDF を **テキスト検索可能な PDF** に変換することができます。

- XPS

XPS は「XML Paper Specification」の略です。これは、Microsoft 社が開発した、文書の忠実度を維持するための固定レイアウト書式です。XPS ファイルは、PDF ファイルと同様に、主に保存目的に使用されます。XPS ファイルのコンテンツは、(簡単には) 編集できません。

Readiris は、4 種類の XPS ファイルが作成できます。

- **XPS 画像-テキスト**。この種のファイルは最も一般的に使用されます。これには、認識可能なテキストと、テキストの上を覆う原本の画像の 2 つのレイヤーが含まれます。こうすることにより、認識可能なテキストにアクセスできると同時に、原本の画像を見ることができるようになっています。
注意：画像はテキストを覆うようになっているので、認識ミスがあるかどうかはわかりません。
- **XPS 画像**。この種のファイルを選択すると、Readiris は、文書内のテキスト認識を実行しません。この XPS ファイルではテキストを検索することはできません。このファイルには、原本にあった画像のみが含まれます。
- **XPS テキスト-画像 (Readiris Corporate のみ)**。このファイルタイプは、XPS 画像-テキストの逆です。これは、原本の画像が背景に埋め込まれ、認識されたテキストが画像の上を覆うようになっています。
注意：このフォーマットでは、認識ミスがはっきりとわかるようになっています。
- **XPS テキスト (Readiris Corporate のみ)**。この種のファイルには認識されたテキストは含まれますが、原本の文書にあった画像は含まれません。この XPS ファイルでは、原本の文書にあった画像はグラフィックとして埋め込まれます。

注記：Readiris では、超圧縮された XPS ファイルも作成できます。詳しくは「[XPS オプションの選択](#)」セクションを参照してください。

- RTF

RTF は、「Rich Text Formatting (リッチテキストフォーマット)」の略です。これは、文書の交換を容易にする目的で、Microsoft 社によって開発された無料文書ファイルフォーマットです。Microsoft Word など、大部分のテキストプロセッサで RTF 文書の読み書きができます。

このフォーマットでも、各種のフォーマットレベルが利用できます。詳しくは「[フォーマットオプションの選択](#)」セクションを参照してください。

- DOCX

DOCX は、Microsoft Word 2007 以降で使用される、テキストプロセッサ基準です。このファイルフォーマットは、XML (extensible markup language、拡張可能なマーク付け言語) フォーマットに基づいています。

DOC や RTF 文書と同じレイアウトオプションが利用できます。詳しくは「[フォーマットオプションの選択](#)」セクションを参照してください。

- DOC

DOC は、Microsoft Word 2003 以前で使用されていた標準フォーマットです。

.doc 文書では、多数のレイアウトレベルが利用できます。詳しくは「[フォーマットオプションの選択](#)」セクションを参照してください。

DOC ファイルを作成するには、お使いのコンピュータに Microsoft Word をインストールしなければなりません。

- ODT

ODT は「Open DocumentText (オープン ドキュメント テキスト)」の略です。これは、オープンソースのファイルフォーマットです。

ODT は OpenOffice 互換のテキストプロセッサで開くことができます。

利用可能なレイアウトオプションについては「[フォーマットオプションの選択](#)」セクションを参照してください。

- **スプレッドシート ML (xml)**

SpreadsheetML は、Microsoft 社が開発した XML 派生フォーマットです。これは、Microsoft Excel 2003 の標準スプレッドシートフォーマットです。このフォーマットは、多数の表や図がある文書进行处理する際に便利です。

SpreadsheetML では、それ専用のレイアウトオプションが利用できます。詳しくは「[SpreadsheetML オプション](#)」セクションを参照してください。

- **XLSX**

XLSX は、Microsoft Excel 2007 以降で使用される、スプレッドシートファイルフォーマットです。XLSX ファイルは Open XML 基準を使用して作成されます。XLSX ファイル内の各セルは、異なるフォーマットに設定することができます。

利用可能なレイアウトオプションについては「[フォーマットオプションの選択](#)」セクションを参照してください。

- **CSV**

CSV は「Comma Separated Value (カンマ区切り値)」の略です。これは、表データを保存するためのテキストフォーマットです。CSV では、値の区切りにカンマが使用されます。このフォーマットは、通常、Windows コンピュータの Microsoft Excel に関連付けられています。

- **TXT**

TXT ファイルは、未フォーマットのテキストが含まれている、標準テキスト文書です。TXT ファイルは、どんなテキスト編集アプリケーションやワードプロセッシングアプリケーションでも開くことができます。

TXT ファイルでは、レイアウトオプションは利用できません。

- **HTML**

HTML は「Hypertext Markup Language (ハイパーテキスト マークアップ ランゲージ)」の略です。これは、Web ページでよく用いられるマークアップ言語です。これは、文書中のテキストベースの情報の構造やフォーマットを記述するための方法を提供します。このファイルフォーマットは、Microsoft Excel、Internet Explorer などの Web ブラウザ、Adobe Dreamweaver などの Web ページエディタで開くことができます。

レイアウトオプションの詳細については「[フォーマットオプションの選択](#)」セクションを参照してください。

- TIF

Tifは「Tagged Image File (タグ付き画像ファイル)」の略です。これは高品質のグラフィックフォーマットで、多色画像の保存によく使用されます。

Readiris で文書を画像ファイルに変換したい場合、このフォーマットを選択してください。このフォーマットでは、文書のテキスト認識は行われません。

- EPUB

EPUB は、国際電子出版フォーラム (International Digital Publishing Forum、IDPF) が普及促進している公開された無料の電子書籍用ファイル・フォーマット規格です。

EPUB はリフロー型コンテンツ用に設計されています。すなわち、コンテンツの表示が、それを開く端末の形式に自動的に適合するようになっていることを意味します。EPUB は等幅レイアウトコンテンツもサポートします。

Readiris は、EPUB ファイルで、テキストの本文しか作成しません。これには画像は含まれません。

- WAV

WAV は Waveform Audio File Format の略です。Microsoft と IBM によって制定された音声ファイルフォーマットです。

認識結果をこの形式で保存すると、Windows の「テキスト/スピーチの変換」エンジンによって読み出すことができます。

注意：それ以外の多数の旧型ファイルフォーマットにも対応しています。

注記：Readiris によって作成された RTF ファイルは、ウェブベースの事務アプリケーションでも開くことができます。これらのアプリケーションを使用する場合は、必ずレイアウトオプションの[[文字と段落の書式を維持](#)]を選択します。

文書にプロパティを追加する

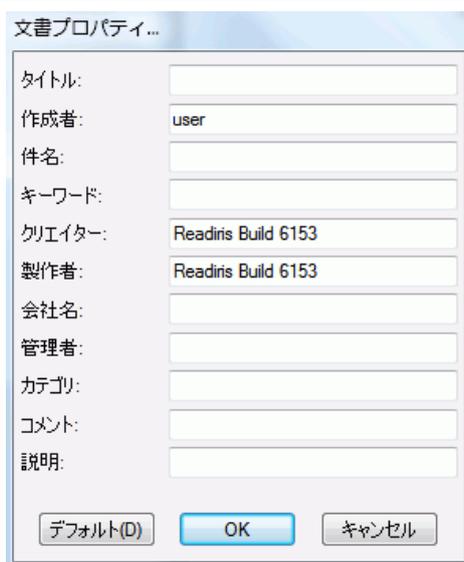
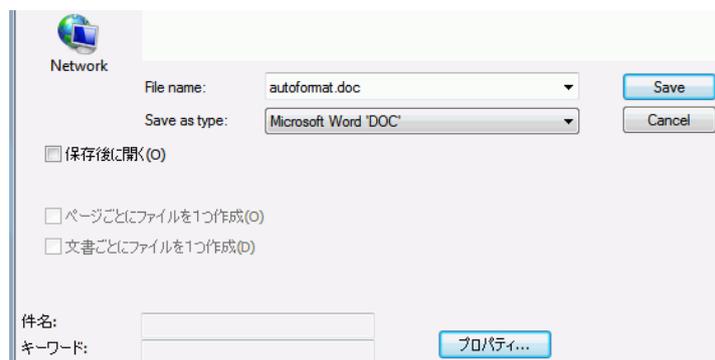
処理した文書を、プロパティで補完することができます。これは、文書に、著者や文書のタイプやスキャンした日付など主要な「タグ」が適用できることを意味します。こうすると、保存した後で文書を簡単に取得することができます。

文書にプロパティを追加するには：

- Readiris で文書をスキャンするか、文書を開きます。
- 希望の出力フォーマットを選択し、[ファイルとして保存] オプションが起動していることを確認します。



- [開始] をクリックすると、文書が保存されます。
- [名前を付けて保存] ウィンドウが開いたら、[プロパティ] をクリックして、文書にプロパティを追加します。



- プロパティを記入し、[OK] をクリックして保存します。

スキャンされた文書を画像ファイルとして保存

スキャンされた文書は、必ずしもテキスト出力ファイルとして保存する必要はありません。最適化された画像ファイルとして保存することもできます。

画像ファイルとして保存する方法:

- Readiris で文書をスキャンするか、文書を開きます。



- 次に[ページ] タブをクリックします。
 - [写真を保存] をクリックすると、写真ゾーンのみが画像ファイルに保存されます。
 - [ページ全体を画像として保存] をクリックすると、現在のページが画像ファイルとして保存されます。
 - [すべてのページを画像として保存] をクリックすると、Readiris の全ページが画像ファイルとして保存されます。

注意：この3番目のオプションでは、すべてのページを複数のページがある1つの画像ファイルに保存するか、各ページを別々の画像ファイルに保存するかを選択することができます。



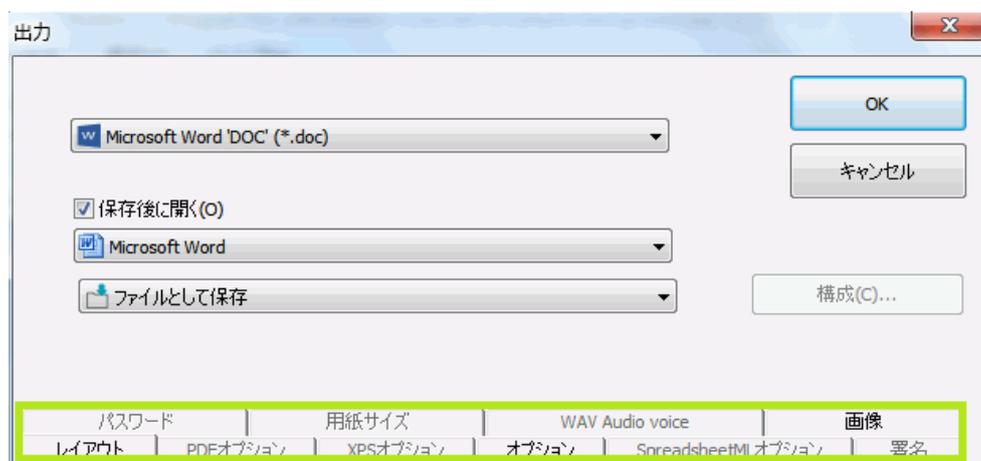
- 文書に名前を付け、保存させたい画像の種類を選択します。
- 選択した画像ファイルの種類に応じて、[JPEG 品質] スライダが表示されます。このスライダで、画像ファイルの質を決定することができます。

フォーマットオプションの選択

[出力] ウィンドウで選択した出力フォーマットに応じて、利用可能なフォーマットオプションが異なります。



下に、各オプショングループの概要が説明されています。詳細については、対応する下の選択肢をご覧ください。



レイアウトオプション

[レイアウトオプション](#) は、ワードプロセッサ文書やスプレッドシート文書や Web ページ文書を作成する際に重要な役割を果たします。これによって、最終的な文書の外観がほぼ決定されます。

一般オプション

Readiris がテキスト認識を実行する出力フォーマットでは、[一般オプション](#)が利用できます。たとえば PDF 画像や TIF などの画像出力フォーマットを選択すると、「一般オプション」は利用できません。

「一般オプション」は「レイアウトオプション」を補完するもので、特に、出力文書で色やグラフィックが維持されているか否かを判断するものです。

SpreadsheetML オプション

Microsoft Excel (2007、2010) 用の SpreadsheetML 文書を作成すると、レイアウトや一般オプション以外に、専用 SpreadsheetML オプションが利用できます。

[SpreadsheetML オプション](#) は、Excel 文書でのワークシートのフォーマット状態を決定するものです。

PDF オプション

PDF 文書を作成する際には、特定の [PDF オプション](#) しか利用できません。これには、ブックマーク、iHQC 圧縮、パスワード保護、電子署名が含まれます。

XPS オプション

XPS 文書を作成する際には、特定の [XPS OptionsXPS オプション](#) しか利用できません。これには、ブックマークや iHQC 圧縮が含まれます。

用紙サイズ

[\[用紙サイズ\]](#) オプションで、出力文書の用紙サイズ (A4、レターサイズ、法定サイズ) を定義することができます。

これらのオプションは、大部分の RTF 出力フォーマットで利用できます。

写真

[\[写真オプション\]](#) は、出力文書で写真をどのように (すなわち、カラーか白黒か) 表示させるかを決定します。解像度も定義できます。

注意：画像に対応しない出力フォーマットやアプリケーションを選択した場合、Readiris では [グラフィックオプション] は利用できません。

WAV 音声

WAV 音声オプションで、認識結果を読み上げるための音声と言語を選択することができます。

レイアウトオプション

レイアウトオプションは、ワードプロセッサ文書 (.doc、.docx、.rtf、.odt)、スプレッドシート文書 (.xml、.xlsx) および Web ページ文書 (.htm) を作成する際に、重要な役割を果たします。これによって、最終的な文書の外観がほぼ決定されます。

下で、各レイアウトオプションで実行できること、および、実際の文書の例について説明します。ウィンドウの右側にあるサムネイルにもご注目ください。選択されたレイアウトオプションに基づいて設定された、文書のレイアウトの概要を知ることができます。

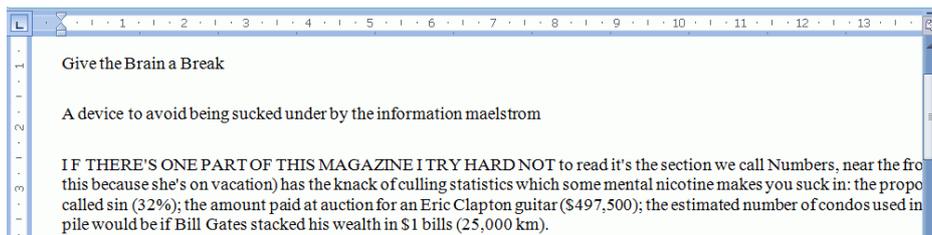
注意：出力フォーマットとして PDF、XPS、TIF を選択した場合は、もちろん、[\[レイアウトオプション\]](#) タブは利用できません。PDF と XPS は固定レイアウトフォーマットで、出荷時の設定では、文書原本のレイアウトを再構成するようになっています。また、TIF は、認識が行われない画像フォーマットです。

注意：選択された出力フォーマットでレイアウトオプションが利用できない場合、そのオプションに対応していないことを意味します。



- [テキストの本文を作成] オプションを選択すると、一続きの連続したテキストが生成されます。その結果、書式設定のない文書が作成されます。この場合、書式設定は、ユーザーが手で実行しなければなりません。

本文の例



- [文字と段落の書式を維持] オプションで、スキャンされた文書の書式構造全般が維持されます。

フォントの種類、サイズ、字体は、認識全体で維持されます。

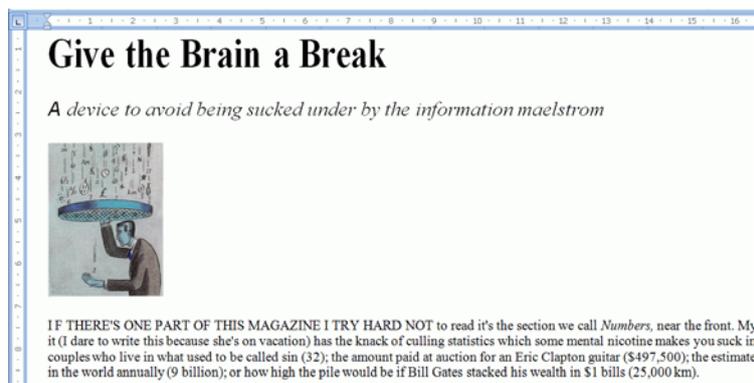
タブと各ブロックの置換は再現されます。

テキストブロックと段は再現されません。段落は単純に後に続けられることとなります。

表は正確に再キャプチャされます。

写真はキャプチャされません。

語と段落の書式設定の例



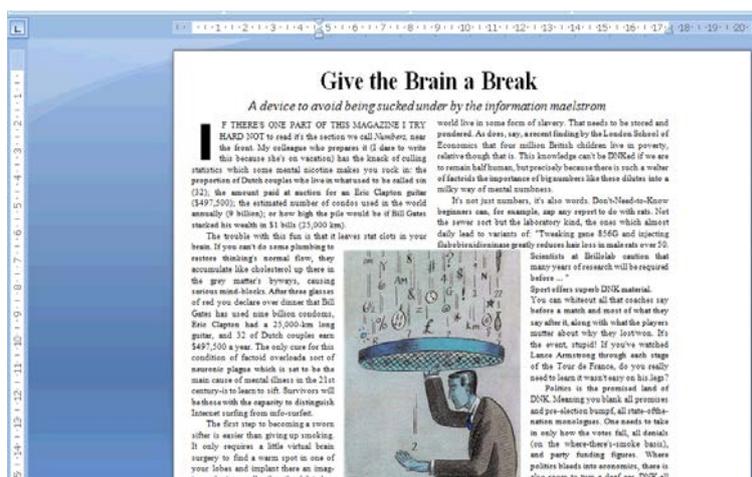
- [原本を再現] オプションは、元の文書のレイアウトをできる限りそのまま再現しようとします。

テキストブロックと表と写真は、原本通りに再構成されます。

語と段落の書式設定が維持されます。

ハイパーリンクも再構成されます。

再構成された元の文書の例



- [フレームの代わりに段組を使用] オプションでは、テキストフレームの代わりに段組が作成されて、ページ上の情報が配置されます。

段組したテキストのほうが、複数のフレームを含む文書より編集が簡単で、テキストは段から段へと自然に続きます。

注意：元の文書に段組を検知できない場合は、代わりにフレームが使用されます。

ヒント：Word 文書を作成する際にはこのオプションを使用してください。

- [段区切りを挿入] オプションは、各段の終わりに強制段区切りを挿入します。編集、追加、削除したテキストは、その段の中に残り、段区切りを超えて、自動的にテキストが連続することはありません。

ヒント：段組をした文章がある場合は、このオプション(段区切りを挿入)を無効にしてください。これにより、テキストが段から段へと自然に連続するようにできます。

- ページ背景として画像を追加] オプションは、スキャンした画像を認識したテキストの下にページ背景として配置します。

注意：しかし、このオプションは、出力ファイルのサイズを大幅に増加します。

[PDF テキスト-画像] フォーマットは、PDF ファイルを同じ方法で変更します。

前述のように出力ファイルのサイズを大幅に増加させたくない場合には、[オプション] タブで [背景のカラーを保持] オプションを選択してください。すると、出力ファイルのサイズが、あまり大きくなりずに済みます。

一般オプション

Readiris がテキスト認識を実行する出力フォーマットでは、[一般オプション](#)が利用できます。たとえば PDF 画像や TIF などの画像出力フォーマットを選択すると、「一般オプション」は利用できません。「一般オプション」は、「レイアウト」や「SpreadsheetML」など、他のオプションを補完します。ただし、他のフォーマットオプションを選択した場合には、一部の一般オプションは利用できなくなる場合があります。

下で、各オプションで実行できること、および、実際の文書の例について説明します。



- [段落にラインを結合] オプションは、段落自動検出を有効にします。

Readiris は、新しい段落が始まるまで認識したテキストをワードラップし、ハイフンのある単語を行末で再びくっつけます。

- [写真を含める] オプションは読んで字の如しであり、出力文書に画像を添付します。

レイアウト済みテキストのみを必要とする場合は、このオプションをクリアしてください。

- [テキストのカラーを保持] オプションは、認識処理に際してテキストオリジナルの色を維持します。
- [背景のカラーを保持] オプションは、各文書の背景のカラーを再作成します。

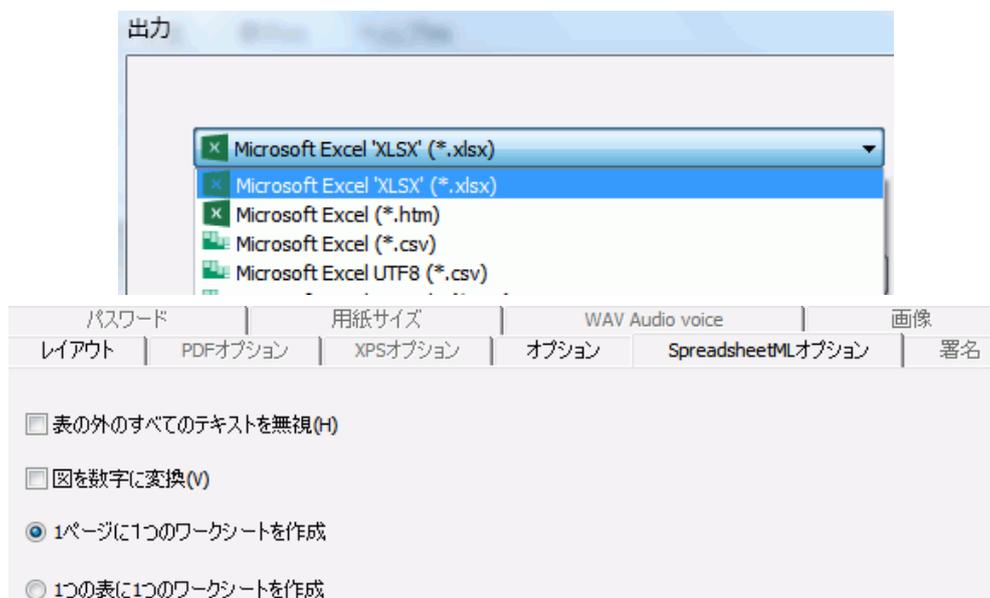
注意：スプレッドシート アプリケーションでは、このオプションは、各セルの背景のカラーを再作成します。

	A	B	C
1	Performance optical media		
2	CD-ROM	Average access	CPU
3	Digital Versatile Disk	time (msec)	utilization (%)
4	CD-ROM 24x speed	80	58.2
5	CD-ROM 32x speed	60	72.1
6	DVD	58	78.9
7	Tested on 333 MHz Pentium II with 64 MB RAM and 4 GB HD		

SpreadsheetMLオプション

出力フォーマットとして Microsoft Excel 2007、2010 (SpreadsheetML) を選択した場合、SpreadsheetML オプションが利用できます。

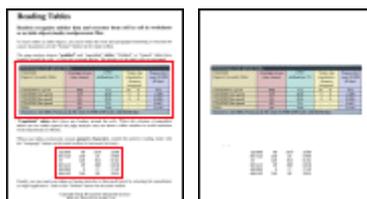
下で、各オプションで実行できること、および、実際の文書の例について説明します。



- [表の外のすべてのテキストを無視]オプションは、表を保存し、その他すべての認識結果を無視します。

表の中のデータはすべて取得されますが、表の外のデータは取得されません。

画像例



- [図を数字に変換]オプションは、認識したデータ値を数字としてエンコードします。

その結果、これらのセルで演算操作が行えます。(あらゆる表の)テキストセルはテキストのままです。

表の中のデータだけが、数字としてエンコードされることにご留意ください。

- [1ページに1つのワークシートを作成]オプションは、スキャンしたページごとにワークシートを1つ作成します。

ページに表とテキストがある場合は、すべてが同じワークシート内に配置されます。

- 1つの表に1つのワークシートを作成]オプションは、別個のワークシートに各表を配置し、認識したテキスト(表の外)を別のワークシートに入れます。

認識した文書に数ページがある場合は、ページごとに構造が繰り返されます。

このオプションは、サイズや見出しが異なる表を処理する際に便利です。

用紙サイズ

[用紙サイズ] オプションで、出力文書の用紙サイズ (A4、レターサイズ、法定サイズ) を定義することができます。これらのオプションは、大部分のリッチテキスト出力フォーマットで利用できます。



- [用紙サイズ] タブをクリックし、矢印ボタンで用紙サイズを適用し、実行します。
- Readiris は、「該当フォーマット」に設定された用紙サイズを指定した順番をたどり、スキャンした文書に十分な大きさの最初の用紙サイズを使用します。

注意：出荷時の用紙サイズは、お使いのオペレーティングシステムによって異なります。

写真

[写真オプション] は、出力文書で画像をどのように (すなわち、カラーか白黒か) 表示させるかを決定します。解像度も定義できます。

注意：画像に対応しない出力フォーマットやアプリケーションを選択した場合、Readiris では [写真オプション] は利用できません。

各オプションについて下で説明します。

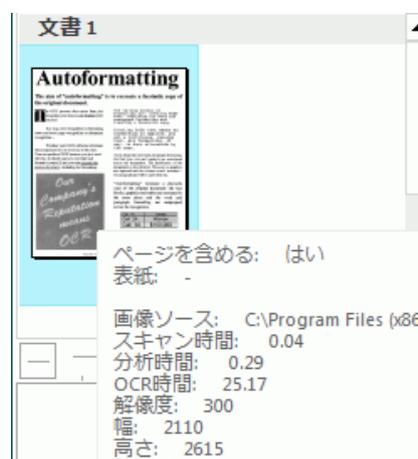


- 白黒画像

出荷時の設定では、Readiris はグラフィックをカラーで保存します。白黒の画像を作成するにはこのオプションを選択します。文書内のテキストの色は原本通りに保持されます。

- スキャンの解像度を保持する

出荷時の設定では、このオプションが起動しています。Readiris は、スキャンされた文書と同じ解像度の出力文書を作成します。スキャンした際の解像度を確認するには、[\[スキャナの設定\]](#)を確認してください。もしくは、ページサムネールをポイントして、プロパティを表示させることもできます。



- 解像度を下げる :

原本と同じ解像度を保持したくない場合には、[\[解像度を下げる\]](#) オプションを選択し、どの解像度まで下げるかを指示します。

注意 : 少なくとも解像度 72 dpi をご使用になるようお勧めします。

- JPEG の品質

PDF、XPS、Word、RTF 文書の中に保存された画像は、JPEG で保存されています。

スライダを使用して、JPEG の品質を調整します。

- JPEG 2000 圧縮

PDF、XPS フォーマットでファイルを保存する場合は、Readiris は、これらのファイルの中に保存されているカラー画像、またはグレースケール画像に JPEG 2000 を適用できます。

PDFオプションの選択

Readiris で処理された文書は PDF 文書として保存できます。

PDF 文書について

PDF は「Portable Document Format (ポータブル・ドキュメント・フォーマット)」の略です。これは、文書の交換を容易にする目的で、Adobe System Inc.によって開発されたフォーマットです。PDF ファイルは、デバイスや解像度と一切関係なく、どんなオペレーティングシステム (Windows、Mac OS、Linux、iOS、Android など) でも開くことができるフォーマットです。PDF は、主に、保管目的で使用されます。PDF ファイルのコンテンツは、(簡単には) 編集できません。

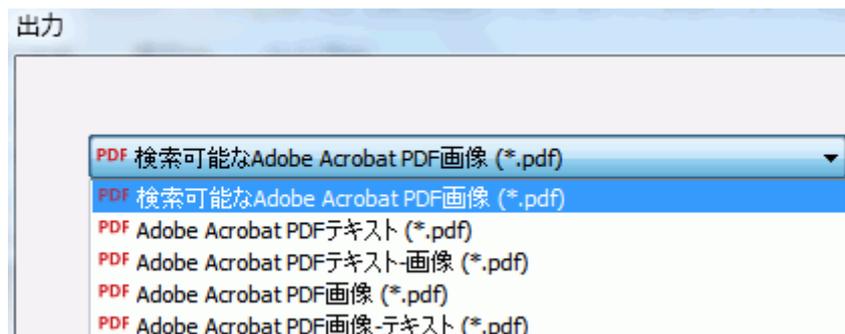
文書を PDF 文書として保存するには：

- [出力] グループで PDF を選択し、その下にある下向き矢印をクリックして設定を構成します。

[出力] グループに PDF が表示されていない場合、[その他] をクリックします。



- ドロップダウンリストから希望の PDF タイプを選択します。



- **PDF 画像-テキスト (= PDF 検索可能画像)**。この種のファイルは最も一般的に使用されます。これには、認識可能なテキストと、テキストの上を覆う原本の画像の2つのレイヤーが含まれます。こうすることにより、認識可能なテキストにアクセスできると同時に、原本の画像を見ることができるようになっています。

注意：画像はテキストを覆うようになっているので、認識ミスがあるかどうかはわかりません。

- **PDF 画像**。この種のファイルを選択すると、Readiris は、文書内のテキスト認識を実行しません。この PDF ファイルではテキストを検索することはできません。このファイルには、原本にあった画像のみが含まれます。
- **PDF テキスト (Readiris Corporate のみ)**。この種のファイルには認識されたテキストは含まれますが、原本の文書にあった画像は含まれません。この PDF ファイルでは、原本の文書にあった画像はグラフィックとして埋め込まれます。
- **PDF テキスト-画像 (Readiris Corporate のみ)**。このファイルタイプは、PDF 画像-テキストの逆です。これは、原本の画像が背景に埋め込まれ、認識されたテキストが画像の上を覆うようになっています。

注意：このフォーマットでは、認識ミスがはっきりとわかるようになっています。

PDF オプション

パスワード	用紙サイズ	WAV Audio voice	画像
レイアウト	PDFオプション	XPSオプション	オプション
		SpreadsheetMLオプション	署名

<input type="checkbox"/> ブックマークを作成(K)	<input type="checkbox"/> PDF/A完全準拠ファイルを作成
	<input type="checkbox"/> 高速WEBビュー
<input type="checkbox"/> フォントを埋め込む(F)	PDF 1.5 (Acrobat 6.0以降)
PDF - インテリジェント高品質圧縮	
iHQC - レベルIII - 良好サイズ (Acrobat 6.0以降)	
<input checked="" type="checkbox"/> 記号を圧縮(Y)	
<input checked="" type="checkbox"/> ウェブレット圧縮 (W)	
<input type="button" value="ヘルプ(H)"/>	

ブックマークの作成

ブックマークは、PDF 文書中に存在するリンクの一種であり、その中には、それにリンクされているセクションの関連情報が含まれています。ブックマークは、PDF 文書の構造を記述するものです。これは、[ナビゲーション] ウィンドウの [ブックマーク] パネルの中で分類されています。

Readiris では、[ブックマークの作成] オプションで、PDF ファイル内にある各テキストゾーンと画像ゾーンとテーブルゾーンのブックマークが作成されます。

フォントを埋め込む

[フォントを埋め込む] オプションを使用すると、PDF ファイルには、文書に元もと含まれていたフォントが埋め込まれ (包含され) ます。これにより、他のユーザーが自分のコンピュータで開いたときに、そのコンピュータに原本のフォントがない場合でも、文書を、原本のフォントで表示させることができます。

フォントを埋め込むと、出力文書のファイルサイズが大きくなります。

PDF/A 完全準拠ファイルを作成(Readiris Corporate)

このオプションによって、長期間のアーカイブに適した PDF ファイルが作成されます。

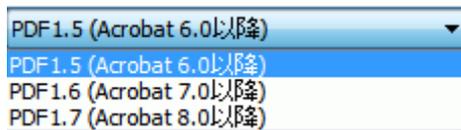
PDF/A は「Portable Document Format **Archivable** (アーカイブ可能なポータブル・ドキュメント・フォーマット)」の略です。PDF/A ファイルは、ファイルを開いたり表示するのに必要なものだけを含んでいます。

高速 WEB ビュー

[高速 WEB ビュー] オプションは、Web サーバーから PDF 文書が 1 ページずつダウンロードされるように再構成します。このオプションは、クラウドに送信された文書にアクセスする際に便利です。

PDF バージョン

このドロップダウンリストでは、どのバージョンの PDF を作成するかが選択できます。各バージョンの背後には、PDF を開くために必要な Acrobat のバージョンが記載されています。



PDF - インテリジェント高品質圧縮

Readiris には、PDF 文書を圧縮する機能も含まれています。詳しくは「[PDF 文書の圧縮](#)」セクションを参照してください。

ヒント：また、「[PDF 文書をパスワードで保護する](#)」と「[PDF 文書にデジタル署名](#)」のセクションも参照してください。

PDF文書の圧縮

Readiris で作成された PDF 文書は、iHQC 方法を利用して超圧縮できます。iHQC は intelligent High-Quality Compression (インテリジェント高品質圧縮) の略であり、I.R.I.S.が開発し、特許を有している効率性の高い圧縮技術です。iHQC は、MP3 が音楽、DivX が映画を圧縮しているのと同じ要領のものです。

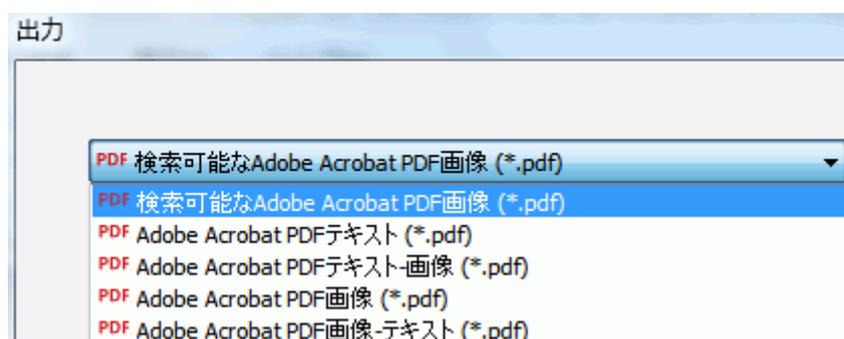
圧縮 PDF 文書を作成するには：

- [出力] グループで PDF を選択し、その下にある下向き矢印をクリックして設定を構成します。

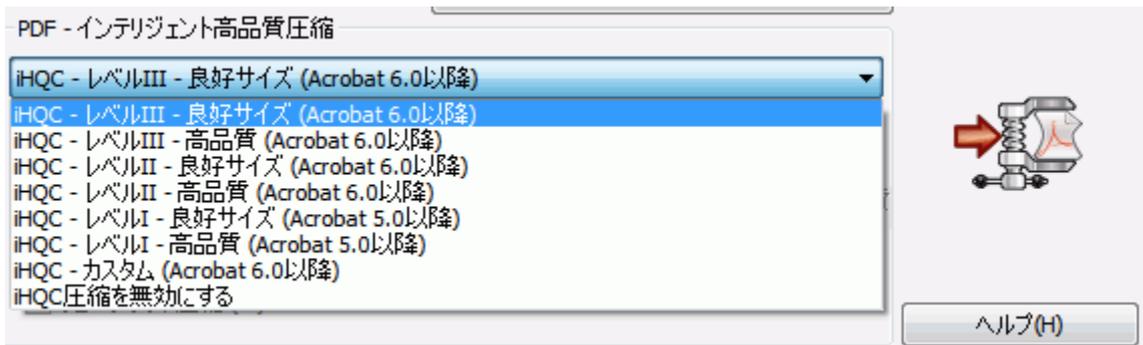
[出力] グループにて PDF が表示されていない場合、[その他] をクリックします。



- ドロップダウンリストから必要な PDF タイプを選択します。
iHQC 圧縮は、PDF テキストや PDF テキスト-画像ファイルでは利用できません。



- 必要な圧縮レベルを選択します。次の 3 つの圧縮レベルがあります。
各レベルには、次の 2 つの圧縮タイプがあります。**良好サイズ**と**高品質**。良好サイズは、画質の損失を最小限に抑えて最適な圧縮を提供します。高品質では、出力ファイルのサイズは多少大きくなりますが、画質が向上します。



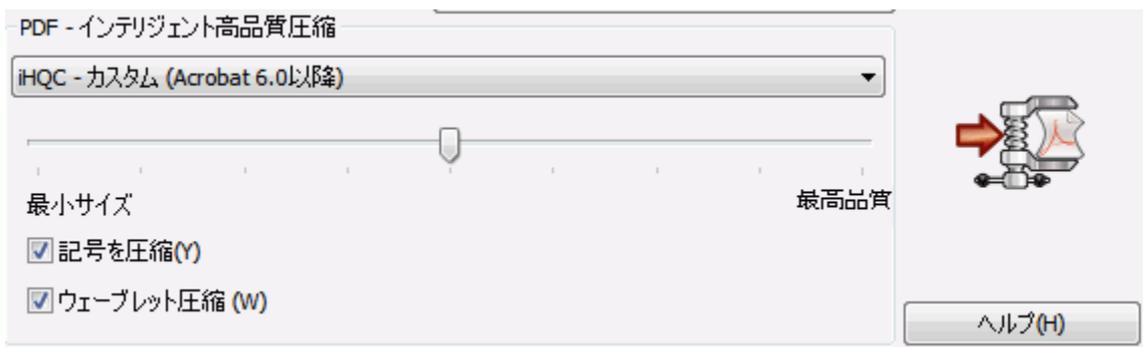
注意：

Readiris Pro では、レベルI - 良好サイズとレベルI - 高品質が選択できます。

Readiris Corporate では、あらゆるレベルの iHQC にアクセスできます。

圧縮のカスタマイズ (Readiris Corporate)

Readiris Corporate ではカスタム圧縮も選択できます。このオプションを選択すると、スライダーを使って、ユーザーがサイズと品質の比率を決定することができます。



出荷時の設定では、[記号を圧縮] が選択されています。このオプションでは、文書内のテキストが圧縮されます。

出荷時の設定では、[ウェーブレット圧縮] も選択されています。このオプションでは、文書内の画像が圧縮されます。

PDF文書をパスワードで保護する

(この項目は Readiris Corporate のみに適用されます)

Readiris で作成された PDF 文書は、パスワードで保護することができます。文書を開くためのパスワードと、文書の変更を制限するパスワードが設定できます。

PDF 文書をパスワードで保護するには：

- [出力] グループで PDF を選択し、その下にある下向き矢印をクリックして設定を構成します。

[出力] グループにて PDF が表示されていない場合、[その他] をクリックします。



- ドロップダウンリストから必要な PDF タイプを選択します。
- 次に[パスワード] タブをクリックします。

レイアウト	PDFオプション	XPSオプション	オプション	SpreadsheetMLオプション	署名
パスワード	用紙サイズ	WAV Audio voice	画像		
<p>文書を開くパスワード</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 文書を開くにはパスワードが必要(D)</p> <p>文書を開くパスワード(O) <input type="text"/></p> <p>許可</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 文書の編集と印刷を制限(R)。許可設定の変更にはパスワードが必要となります。</p> <p>許可パスワードの変更(P): <input type="text"/></p> <p>印刷許可(I): <input type="text" value="なし"/></p> <p>変更を許可(C): <input type="text" value="なし"/></p> <p><input type="checkbox"/> テキスト、イメージ、その他のコンテンツのコピーを有効にする(E)</p> <p style="text-align: right;"><input type="button" value="ヘルプ(H)"/></p>					

- 文書を開くパスワードを設定した場合は、出力された PDF を開くとき、そのパスワードを入力するよう指示されます。
- 許可パスワードを設定した場合は、セキュリティ設定で特定したアクションのみを実行することができます。これらの設定を変更する場合は、許可パスワードを入力しなければなりません。

Readiris のセキュリティ設定は、Adobe Acrobat で提供されている標準保護機能と類似しています。

ただし、Readiris の文書を開くパスワードと許可パスワードは、別個のものでなければなりません。

電子署名PDF文書

(この項目は Readiris Corporate のみに適用されます)

Readiris で作成された PDF 文書には、電子署名を追加することができます。電子署名は、PDF 文書を作成した人を識別します。つまり、電子署名は作成者を識別し、文書を認証し、PDF 文書に不要な変更が加えられるのを防止します。

ただし、Readiris では電子署名は作成できません。Readiris で電子署名文書が作成できるように、ご自分で電子署名を用意する必要があります。電子署名は Adobe Acrobat で作成するか、VeriSign などの企業から入手することができます。

電子署名文書の生成方法:

- [出力] グループで PDF を選択し、その下にある下向き矢印をクリックして設定を構成します。

[出力] グループにで PDF が表示されていない場合、[その他] をクリックします。

- ドロップダウンリストから必要な PDF タイプを選択します。
- [署名] タブをクリックし、署名オプションにアクセスします。
- [この署名を使用する] を選択し、希望の署名を検索します。



ヒント：

このリストで署名が見つからない場合、[管理] ボタンをクリックします。次に、[インポート] をクリックし、[証明書のインポートウィザード] の指示に従います。

また、[管理] ボタンの背後にあるオプションを使用して、PC で電子署名を編集・削除・エクスポートすることもできます。

[詳細] ボタンをクリックし、現在の署名に利用可能な情報すべてを表示します。

署名の詳細に関しては、Acrobat の説明書をご参照ください。

電子署名を使用すると、Adobe Acrobat や Adobe Reader の [署名] タブに表示されます。

XPSオプションの選択

Readiris で処理された文書は XPS 文書として保存できます。

XPS 文書について

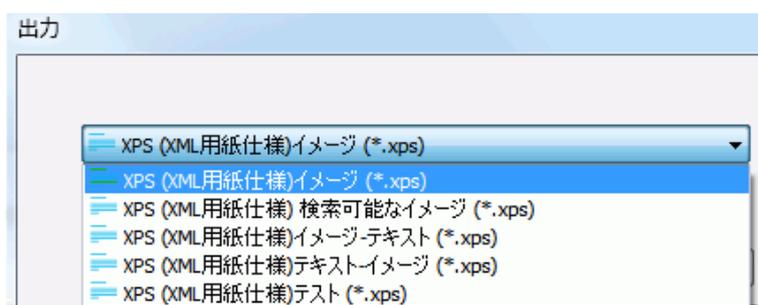
XPS は「XML Paper Specification」の略です。これは、Microsoft 社が開発した、文書の忠実度を維持するための固定レイアウト書式です。XPS ファイルは、PDF ファイルと同様に、主に保存目的に使用されます。XPS ファイルのコンテンツは、(簡単には) 編集できません。

文書を XPS 文書として保存するには：

- [出力] グループで[その他] をクリックします。



- ドロップダウンリストから希望の XPS タイプを選択します。



- XPS 画像-テキスト。この種のファイルは最も一般的に使用されます。これには、認識可能なテキストと、テキストの上を覆う原本の画像の 2 つのレイヤーが含まれます。こうすることにより、認識可能なテキストにアクセスできると同時に、原本の画像を見ることができるようになっています。

注意：画像はテキストを覆うようになっているので、認識ミスがあるかどうかはわかりません。

- XPS 画像。この種のファイルを選択すると、Readiris は、文書内のテキスト認識を実行しません。この XPS ファイルではテキストを検索することはできません。このファイルには、原本にあった画像のみが含まれます。
- XPS テキスト (Readiris Corporate のみ)。この種のファイルには認識されたテキストは含まれますが、原本の文書にあった画像は含まれません。この XPS ファイルでは、原本の文書にあった画像はグラフィックとして埋め込まれます。

- XPS テキスト-画像 (Readiris Corporate のみ)。このファイルタイプは、XPS 画像-テキストの逆です。これは、原本の画像が背景に埋め込まれ、認識されたテキストが画像の上を覆うようになっています。

注意：このフォーマットでは、認識ミスがはっきりとわかるようになっています。

XPS オプション



ブックマークの作成

ブックマークは、XPS 文書中に存在するリンクの一種であり、その中には、それにリンクされているセクションの関連情報が含まれています。ブックマークは、XPS 文書の構造を記述するものです。

Readiris では、[ブックマークの作成] オプションで、XPS ファイル内にある各テキストゾーンと画像ゾーンとテーブルゾーンのブックマークが作成されます。XPS のブックマークの例

XPS - インテリジェント高品質圧縮

Readiris には、XPS 文書を圧縮する機能も含まれています。詳しくは「[XPS 文書の圧縮](#)」セクションを参照してください。

XPS文書の圧縮

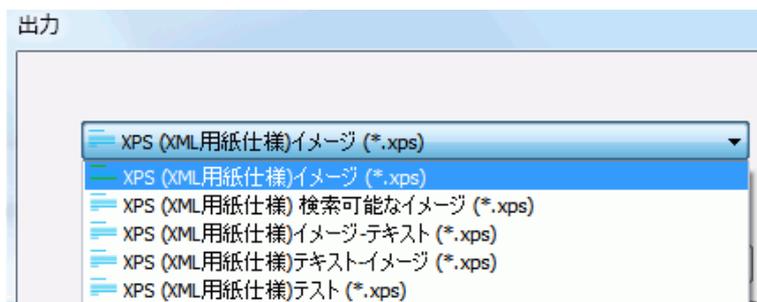
Readiris で作成された XPS 文書は、iHQC 方法を利用して超圧縮できます。iHQC は intelligent High-Quality Compression (インテリジェント高品質圧縮) の略であり、I.R.I.S.が開発し、特許を有している効率性の高い圧縮技術です。iHQC は、MP3 が音楽、DivX が映画を圧縮しているのと同じ要領のものです。

圧縮 XPS 文書を作成するには：

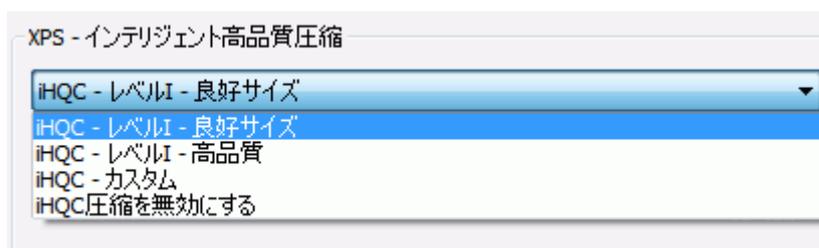
- [出力] グループで[その他] をクリックします。



- ドロップダウンリストから、必要な XPS タイプを選択します。
iHQC 圧縮は、XPS テキストや XPS テキスト-画像ファイルでは利用できません。



- 必要な圧縮レベルを選択します。
レベル1には、次の2つの圧縮タイプがあります。**良好サイズ**と**高品質**。良好サイズは、画質の損失を最小限に抑えて最適な圧縮を提供します。高品質では、出力ファイルのサイズは多少大きくなりますが、画質が向上します。



Readiris Corporate では**カスタム**圧縮も選択できます。このオプションを選択すると、スライダーを使って、ユーザーがサイズと品質の比率を決定することができます。



セクション 9：文書をクラウドに送信する

Readiris で処理された文書は、各種のクラウドアプリケーションに送信できます。Readiris Pro では、文書を、Evernote、Dropbox、Google Drive、OneDrive、Box に送信できます。Readiris Corporate を使用すると、文書を Microsoft SharePoint、Therefore、IRISNext、FTP にも送信できます。

クラウドにエクスポートする前に、接続を設定する必要があります。

重要：Dropbox、Google Drive、Evernote、Box、OneDrive、SharePoint、Therefore、IRISNext または FTP の有効なアカウントがなければ、接続を設定することはできません。

重要(Readiris Corporate)：Therefore を使用する場合、コンピュータに Therefore Client をインストールして、正しく設定する必要があります。

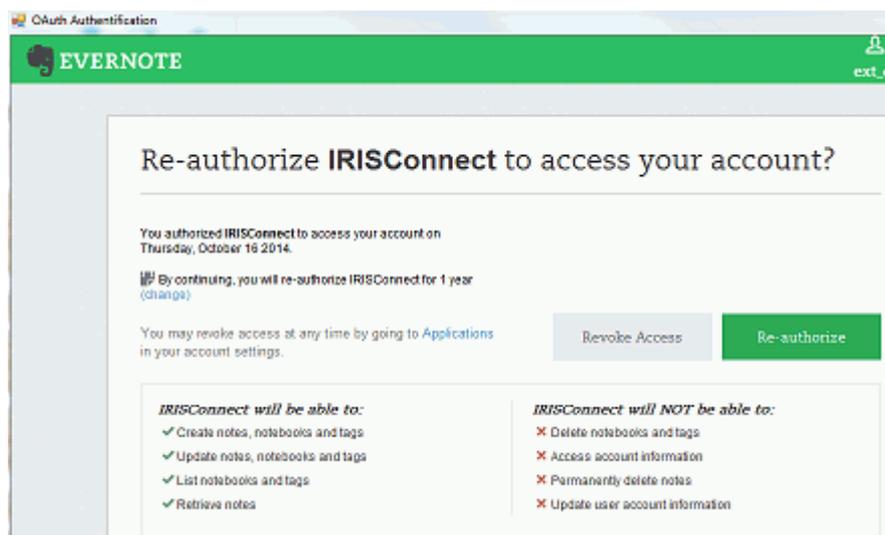
コネクタの構成

- クラウドセットアップ] タブで、希望のクラウドアプリケーションをクリックします。



Evernote、Dropbox、Box、OneDrive、Google Drive

- [参照] をクリックします。
[OAuth 認証] ウィンドウが開きます。
- 認証情報を入力して [サインイン / 認可] をタップします。
- IRISConnect にあなたのアカウントへのアクセスを許可するオプションを選択します。



Evernote の例

- 希望のフォルダを選択します。

注意：「エクスポートの前に確認を要求する」が選択された以下のオプションを維持した場合、文書进行处理する際に、必ずエクスポートフォルダを指定する必要があります。この手順を省略するには、このオプションを消去します。
- [OK]をクリックして、設定を終了します。

SharePoint、Therefore、IRISNext

- ユーザー名とパスワードを入力します。
- 接続先の SharePoint サーバを入力します。
- 次に [参照] をクリックします。
- エクスポート先のフォルダを選択します。
- 必要に応じて [コンテンツのタイプ] を選択します。

注意：「エクスポートの前に確認を要求する」が選択された以下のオプションを維持した場合、文書进行处理する際に、必ずエクスポートフォルダを指定する必要があります。この手順を省略するには、このオプションを消去します。
- [OK]をクリックして、設定を終了します。

FTP

- ユーザー名とパスワードを入力します。
- [サーバ] フィールドに FTP アドレスを入力します。
- 必要に応じて [パス] を入力します。

- プロキシ ホスト：FTP サーバが、外部サーバへの接続に SSL プロキシを必要とするファイアウォールの背後で実行される場合、このフィールドにプロキシホスト名を入力します。お使いのコンピュータからインターネットに正しく接続できる場合、このフィールドを空白にしておきます。

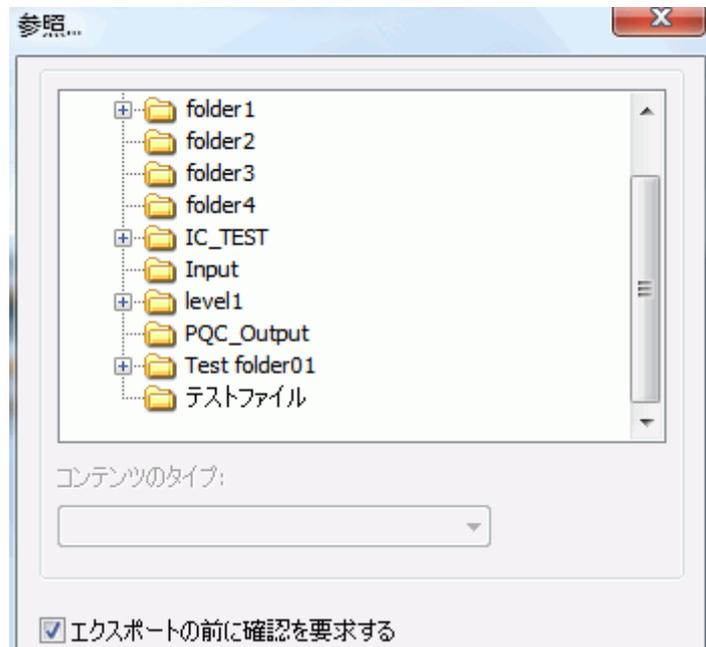
文書の送信

- 文書をスキャンするか、文書を開き、必要な処理設定を選択します。
- [出力] グループで、設定したクラウドアプリケーションを選択します。



- 次に、[開始] をクリックすると、クラウドに文書が送信されます。
- クラウドシステムのどこに文書をエクスポートするか正確に指示するよう、尋ねられます。ロケーションを指示して、[OK] をクリックします。

ヒント：将来、ロケーションを指示しなくても済むようにするには、「エクスポートの前に確認したいかどうか尋ねる」オプションをクリアしてください。



- このとき、文書に名前を付けるよう指示されます。文書に名前を付け、[OK] をクリックすると、エクスポートが完了します。

ファイル名:

タイトルなし

タイトルなし

OK キャンセル

インデックス付き文書をクラウドに送信する

(この項目は Readiris Corporate のみに適用されます)

文書をクラウドロケーションに送信する際に、Readiris は、自動的に、クラウドロケーションで、必須インデックスフィールドに記入する必要があるか否かを検出します。

The screenshot shows a SharePoint interface with a blue header bar containing 'Delete Item' and 'Spelling...'. Below the header is a form with three rows of fields:

Content Type *	Technical notes
Name *	Readiris .pdf
Title *	

SharePoint の必須フィールドの例

インデックス付き文書を送信するには：

- クラウドコネクターを設定します。
- 好みの設定を使用して文書进行处理します。
- [ターゲット] グループで [その他] をクリックします。
- Readiris に、文書を送信する際にクラウドシステムで利用できるインデックスフィールドをすべて表示させたい場合、リストの下で [ユーザーインデックス] を選択します。
- [ユーザーインデックス] を選択しなかった場合、文書を送信する際に、Readiris は、必須インデックスフィールドのみを表示します。
- [開始] をクリックすると、文書が送信されます。
[インデックス] タブに (必須) インデックスフィールドが表示されます。



文書プロパティ...

タイトル:

作成者:

件名:

キーワード:

クリエイター:

製作者:

会社名:

管理者:

カテゴリ:

コメント:

説明:

デフォルト(D) OK キャンセル

- インデックスフィールドに手で記入するか、
- Readiris の「ドラッグアンドドロップ」認識テクノロジーを使用して、記入します。
 - 記入したいフィールドの内部をクリックします。
 - 次に、[テキスト] アイコンをクリックしてテキストゾーンを認識するか、[バーコード] アイコンをクリックしてバーコードトゾーンを認識します。
 - インデックスとして使用したいゾーンの周りにフレームを描きます。マウスボタンを離すと、フィールドにテキストが記入されます。
- [開始] をクリックするとインデックス付き文書が送信され、[中止] をクリックすると、初めに戻ります。

方法

Readirisでスキャナを構成する方法

Readiris で文書をスキャンするにはスキャナを正しく設定する必要があります。

Readiris でスキャナを設定する前に：

1.PC にスキャナが接続され、電源が入っていることを確認してください。

注意：USB ケーブルでスキャナがコンピュータに物理的に接続されていることを確認します。メーカーから提供された Twain ドライバがイーサネットやワイヤレス接続に対して設定されている場合、それらを使用することもできます。

2.スキャナに、最新 Twain ドライバがインストールされていることを確認します。

通常、ドライバは、スキャナメーカーの Web サイトにあります。I.R.I.S.ではドライバを提供しません。スキャナドライブの一部は、Windows 最新バージョンで稼働しない場合がありますのでご注意ください。サポートされているプラットフォームに関しては、スキャナに同梱されていた文書をご参照ください。必要に応じて、スキャナのメーカーにお問合せください。

設定

- リボンの[スキャン]の下にある下向き矢印をクリックします。
- 次に [設定] をクリックします。



- 初めてこれを実行したときには、自動的に [スキャナ モデル] リストが開きます。

このリストでお使いのスキャナプロファイルを選択します。スキャナプロファイルを使用すると、お使いのスキャナ専用の機能にアクセスできます。例：両面スキャンなど。

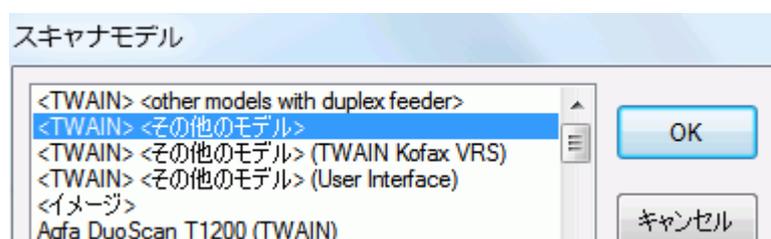
リスト中にお使いのスキャナが見つからない場合でも心配はいりません。スキャナの中には、専用のスキャナプロファイルを持たないものもあります。

重要： 正確なプロファイルが見つからない場合でも、似たようなプロファイルは**選択**しないでください。代わりに**汎用 Twain プロファイル**を選択してください。別の Twain プロファイルが利用できません。

通常のフラットベッドスキャナを使用している場合、**<Twain><OTHER MODELS>** を選択します。

Readiris ではなく、スキャナのユーザーインターフェースを使用して文書をスキャンしたい場合、**<Twain><OTHER MODELS>(ユーザーインターフェース)** を選択します。

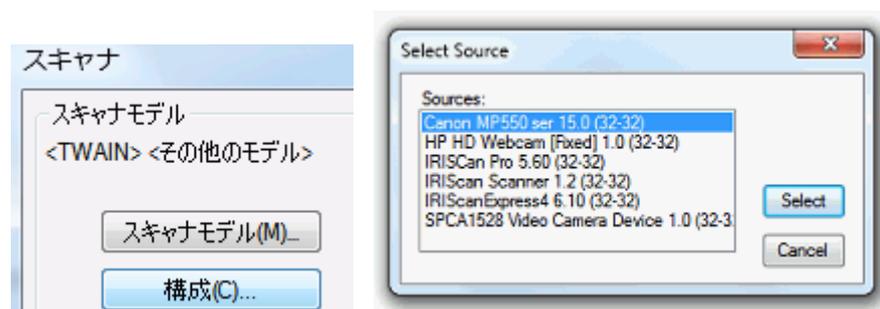
ページの表裏をスキャンする両面スキャナを使用したい場合、**<Twain><OTHER MODELS with duplex feeder>** を選択します。



スキャナモデルを選択したら、スキャナドライバを設定する必要があります。

- **[設定]** をクリックし、スキャナドライバを選択します。

[ソースの選択] ウィンドウにお使いのスキャナが見つからない場合、スキャナドライバは正しくインストールされていません。スキャナドライバをもう一度インストールしてから、Readiris を設定しなおしてください。通常、スキャナドライバは、スキャナメーカーの Web サイトにあります。



スキャナの設定が終わったら、出荷時のスキャナ設定を使って、スキャンを開始することができます。

各スキャナの設定方法やその変更方法については、[スキャナ設定の選択](#)をご覧ください。

認識結果の改善方法

認識結果の質は、さまざまな因子に左右されます。

- 文書の言語
言語リストから適切な言語を選択してください。詳しくは「[認識オプション](#)」セクションを参照してください。
- スキャンされる文書の質
スキャンされる文書の文字が薄すぎたり、濃すぎると、Readiris は認識しづらくなります。幸い、スキャンされた文書の質が調整できる機能があります。その方法については、「[画質を調整する](#)」セクションを参照してください。
- スキャナの設定
文書のスキャンにスキャナを使用する場合、画像の質はスキャナの設定にも関係してきます。スキャナが正しく設定されているかどうかを確認するには、「[スキャナ設定の選択](#)」セクションを参照してください。
通常の文書ではスキャン解像度を 300 dpi に設定し、小さな文字やアジア言語の場合は 400 dpi に設定してください。

複数の文書をスキャンする方法

Readiris には、Readiris で複数の文書のスキャンや処理を簡単に行うための機能が多数装備されています。

フラットベッドスキャナで複数の文書をスキャンする

- [スキャン] ボタンの下にある矢印をクリックし、[スキャナの設定] にアクセスします。



- [スキャナ] ウィンドウで [この後に別のページをスキャン] を選択し、次のページをスキャンするまでの時間を秒で記入します。

すると、いちいちコンピュータに戻って Readiris の [スキャン] ボタンを押す必要がなくなります。ご自分のペースでページを入れ替えれば、Readiris が次のページを自動的にスキャンします。

文書フィーダのあるスキャナで複数の文書をスキャンする

- [スキャン] ボタンの下にある矢印をクリックし、[スキャナの設定] にアクセスします。



- [スキャナ] ウィンドウで [ADF] (自動文書フィーダ) を選択します。

すると、スキャナで次々にページをスキャンすることができ、Readiris はそのスキャンのペースに合わせて処理することができます。

デジタルカメラの画像の処理方法

Readiris は、特殊な認識ルーティンを活用して、デジタルカメラの画像を処理します。デジタルカメラの画像を処理する際に、「デジタルカメラ」オプションが起動していることを確認してください。

「デジタルカメラ」オプションは、[スキャナ設定] オプションと [ファイルの読み込み元] オプションでアクティベートできます。

スキャナ設定で：

- まずデジタルカメラのスイッチを入れ、USB ケーブルでコンピュータに接続します。
- Readiris で、[スキャン] ボタンの下にある下向き矢印をクリックし、[設定] をクリックします。
- [スキャナモデル] をクリックし、リストから <Twain><他のモデル> を選択します。
- 次に [設定] をクリックし、カメラの Twain ドライバを選択します。

注意：ソースの選択 リストにドライバが見つからない場合、ドライバが正しくインストールされていないか、カメラに Twain ドライバがインストールされ

ていないことを意味します。必要に応じて、カメラの取扱説明書をお読みください。

ヒント：Twain ドライバーがない場合、いつでも、[ファイルの読み込み元] でカメラの画像を開くことができます。

- 「スキャナの設定」ウィンドウに戻り、「デジタルカメラ」オプションを選択します。
- Readiris で「スキャン」をクリックすると、カメラがスキャンを開始します。

[ファイルの読み込み元] オプションで：

- デジタルカメラのスイッチを入れ、USB ケーブルでコンピュータに接続します。
- Readiris で [ファイルの読み込み元] をクリックします。
- [デジタルカメラ] オプションを選択します。
- デジタルカメラのメモリを検索して、開きたいファイルを選択します。

注意：デジタルカメラの画像をスキャンするか開いた後で、「射影歪みの補正」機能を使用して最適化します。下を参照してください。

デジタルカメラで写真を撮る際のヒント

- 白い物体を撮影してカメラのキャリブレーションを行います (Readiris を使用する前に)。
- 必ず最高の解像度を選択します。
- アップで撮影する場合は、カメラのマクロモードを有効にします。
- カメラの文書モードを起動します (このモードが選択できる場合)。
- デジタルズームではなく、光学ズームのみを使用します。
- 文書の真上でカメラを構えます。文書を斜めに撮影しないようにします。

ヒント：角度が不適切な場合には、「射影歪みの補正」機能を使用して修正できます。[セクション 7：認識した文書の編集 > ページオプションの変更 > 射影歪みの補正](#) を参照してください。

- 安定した画像が取れるようにします。必要な場合は、三脚を使用します。
- 光沢のある用紙を撮影する場合は、フラッシュをオフにします。
- 圧縮したカメラ画像を開かないようにします。

- 環境(日光、照明、ネオン)に合わせて Readiris の輝度とコントラストの設定を調整します。[スキャナ設定の選択](#) を参照してください。
- Readiris のカラーモードとしてカラー、またはグレースケールを選択します。これについても、[スキャナ設定の選択](#) を参照してください。

バーコードを認識する方法

(この項目は Readiris Corporate のみに適用されます)

Readiris Corporate ではバーコードが認識できます。バーコードを利用して、大量文書の分割をすることができます。



注意：Readiris は、最も普及している 2D バーコードに対応しています。Readiris は、レーザープリンタかインクジェットプリンタで印刷したバーコードに対応しています。

Readiris にどのバーコードを認識させるかを定義するには：

- [Readiris] ボタンをクリックし、[詳細設定] をクリックします。
- [バーコード] タブをクリックします。
- Readiris に認識してほしいバーコードのタイプを選択します。



重要:Readiris は自動的にバーコードを認識して文書を分割しますが、バーコードゾーンはバーコードとしては認識されません。ほとんどの場合、それは画像として認識されます。

手動でバーコードを認識する：

- 文書を [スキャン] するか [開き] ます。
- [ゾーン] タブをクリックします。
- [バーコード] アイコンをクリックし、バーコードの周囲にフレームを描きます。
- もしくは、誤って画像として認識されたバーコードゾーンを右クリックし、[ゾーン] > [タイプ] とポイントし、[バーコード] を選択します。
- [開始] をクリックすると、文書が保存または送信されます。

特定バーコードの認識

特定のバーコードのコンテンツを使用する必要がある場合：

- バーコードの周囲にバーコードゾーンを描きます。
- ゾーンの内側を右クリックし、[データとしてコピー] をクリックします。

ゾーンのコンテンツがクリップボードにコピーされます。すると、他のアプリケーションに貼り付けることができます。

文書のバッチを分割する方法

(この項目は Readiris Corporate のみに適用されます)

文書フィーダを装備したスキャナなどで書類の山をスキャンする場合、一つの文書がどこで終わり次の文書が始まるかを示すことができると便利です。このため、Readiris では、文書ごとに別々の出力ファイルを作成することができるようになっています。これにより、一度に1つの文書だけをスキャンしなくても済むようになります。

例

30 ページの文書をスキャンする場合を仮定してみましょう。最初の 10 ページが文書 1 に属し、11 ページから 20 ページが文書 2 に属し、21 ページから 30 ページが文書 3 に属しています。書類の山が 3 つの文書で構成されていると指示されると、Readiris は 3 つの別々の出力ファイルを作成します。

用紙文書を分割する方法

Readiris には、用紙文書を分割する方法が 2 つあります。その方法：

- 白紙のページ

この場合、2 枚のページの間には白紙のページを挿入するだけで、新しい文書が始まったことが表示できます。

- バーコードのある表紙

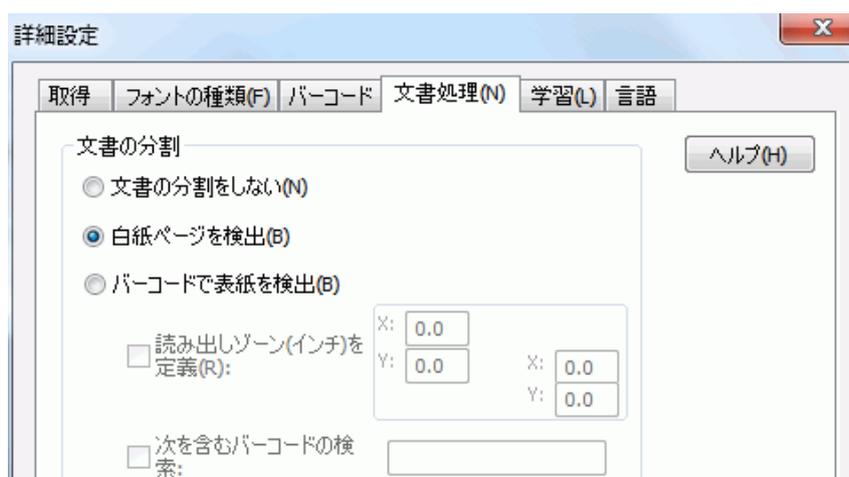
この場合、文書の第1ページに、たとえば、バーコードの付いたステッカーを貼り付けることができます。

文書の分割オプションにアクセスする方法：

- [Readiris] ボタンをクリックし、[詳細設定] をクリックします。
- 文書の処理] タブをクリックします。



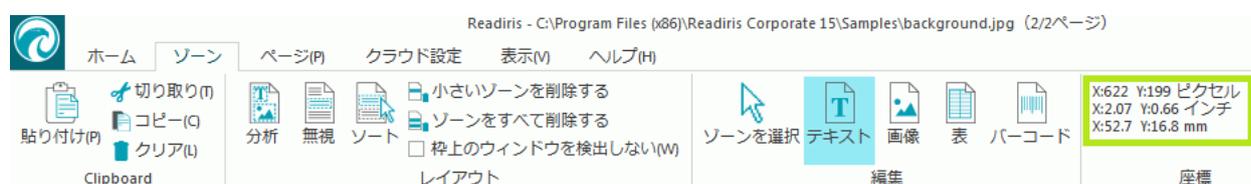
- 次に、[白紙ページを検出]、または[バーコードで表紙を検出]のどちらの分割方法を使用するかを指示します。



バーコードのある表紙を使用する場合、**読み込みゾーン**で、バーコードがページのどの部分にあるかを正確に表示することができます。読み込みゾーンを定義すると、Readiris は、その特定の部分でバーコードを検索します。

ヒント：読み込みゾーンの寸法を正確に知るには、Readiris の **[座標]** 機能を使用します。

- **[ゾーン]** タブをクリックし、**[座標]** を選択します。



- 画像の上にカーソルを置くと、座標が表示されます。

また、バーコードに含まれている内容を指示することもできます。このオプションを選択すると、Readiris は、指示された内容のみを検索します。それ以外のバーコードは、表紙として認識されません。表紙以外のページにもバーコードがある文書を処理する場合に、この機能を推奨します。

認識オプション

バーコードのある表紙に、バーコード以外の内容も含まれていて、それを出力文書の中に入れたい場合、[出力文書に表紙を含める] オプションを選択してください。

[表紙にページ分析を適用する] オプションを使用すると、通常のページと同じように、表紙も認識ゾーンに分割されます。

[表紙にレイアウトを適用する] オプションを使用すると、ゾーニングテンプレートを使用して、表紙を認識ゾーンに分割することができます。ゾーニングテンプレートの使用方法に関しては、「[ゾーニングテンプレートの使用](#)」のセクションを参照してください。

インデックス作成オプション

Readiris で、処理をした文書の詳細を含む XML インデックスファイルを作成したい場合、[XML インデックスの作成] オプションを使用します。

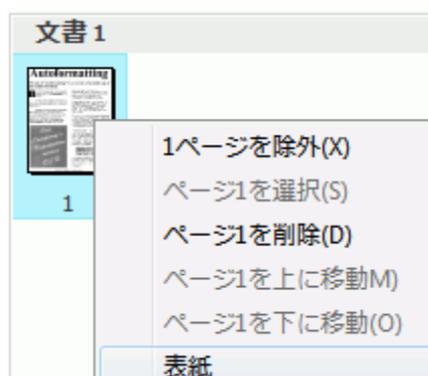
画像ファイルのバッチを分割する方法

(この項目は Readiris Corporate のみに適用されます)

画像ファイルのバッチを処理する際に、Readiris に 1 つの出力ファイルに変換させたくない場合、**表紙**を使用してファイルを分割することができます。

画像ファイルとして保存する方法:

- 処理したい画像をすべてインポートします。
- [ページ] パネルで、新規文書の最初のページ番号を入力します。
 - ページを選択します。
 - 次にそれを右クリックし、**表紙**をクリックします。



- サムネールに表紙アイコンに追加されます。



注意: 出力文書に表紙ページを含めたい場合、それに対応する [文書の分割] オプションを選択します。

- [Readiris] ボタンをクリックします。
- 次に、[詳細設定] をクリックし、[文書の処理] タブをクリックします。



フォームを認識する方法

Readiris は、複雑なフォームを認識するようにデザインされていません。Readiris は、テキストの文字や数字の写真を実際のテキストや数字に変換して文書を認識します。これと反対に、フォームには、線や空欄やチェックボックスなど、多くのグラフィックな要素が含まれているので、Readiris のタスクが複雑になります。

フォームを認識しようとする際には、次の経験則に従ってください。Microsoft Word で、最初から割合簡単に再構成できるとされるフォームの場合には、Readiris でそのフォームを処理できる可能性が高くなります。Word で再構成するために大いに努力を必要とすると思われるフォームの場合、Readiris での処理にも、それと同様の努力が必要になります。

例

Readiris で正しく処理できないと思われるフォーム

The image shows a 2009 U.S. Individual Income Tax Return form (1040) with a red 'X' in the top right corner. The form is filled with various fields, tables, and checkboxes, representing a complex document that Readiris may struggle to recognize accurately. The form includes sections for 'Adjusted Gross Income', 'Taxable Income', and 'Total Tax', along with numerous sub-sections for deductions and credits.

低解像度画像の処理の仕方

Readiris で最良の結果を得るには、300 ないし 400 dpi の解像度が必要です。低解像度画像を処理しなければならない場合、最良の方法は、適切な解像度で画像を再スキャンすることです。それができない場合に備えて、結果を改善するためのヒントやトリックをお教えしましょう。

ヒント 1

不明の解像度(デジタルカメラの場合など)の画像や、ファイルヘッダが間違っ**た解像度**を表示している画像をスキャンする場合は、必ず**[300dpi で処理]**オプションを選択します。

- [スキャン] ボタンの下にある下向き矢印をクリックします。
- 次に [設定] をクリックします。
- [300dpi で処理] オプションを選択します。

このオプションを選択すると、Readiris で、画像は、300 dpi の画像であるかのように処理されます。

ヒント 2

デジタルカメラで画像をスキャンする場合は、必ず**[デジタルカメラ]**オプションを選択します。

- [スキャン] ボタンの下にある下向き矢印をクリックします。
- 次に [設定] をクリックします。
- [デジタルカメラ] オプションを選択します。

ヒント 3 (Readiris Corporate のみ)

低品質の文書を処理する場合は、速度ではなく必ず**精度**を重視するようにします。

- **言語** グループの拡大矢印をクリックします。
- スライダを**精度**に移動させます。

注意：

低解像度のファックスを処理する場合、特別な手段を講じる必要はありません。Readiris は典型的なファックス解像度の 100 x 200 dpi (標準品質)、200 x 200 dpi (高品質)、200 x 400 dpi (最高品質)を検知し、これらの画像を自動的に前処理して、最適の結果が得られるようにします。